

## 第7章 精神障害者生活状況調査（入院患者・専門職）結果

## 第7章 精神障害者生活状況調査（入院患者・専門職）結果

### 1. 基本的事項

#### (1) 年齢

〈本人調査〉

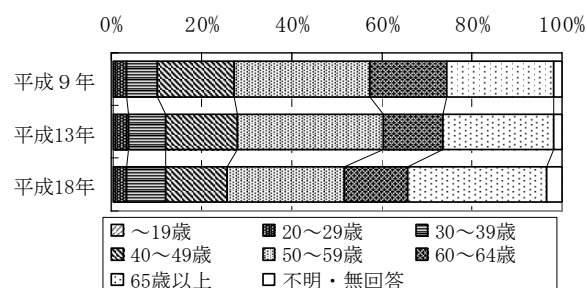
#### 問1 あなたの年齢は満何歳ですか。

- ・ 今回調査では、“60～69歳”が27.9%と最も比率が高く、次いで「50～59歳」が25.9%、「70歳以上」が17.0%などと続いている。
- ・ 経年的には「40～49歳」と「50～59歳」の比率が低下傾向にあるのに対し、“65歳以上”は増加傾向にあり、全体的に入院患者の高齢化が進んでいる状況がうかがえる。

問1 年齢

(単位:%)

	平成9年	平成13年	平成18年
～19歳	0.3	0.5	0.4
20～29歳	3.2	3.3	3.1
30～39歳	6.7	8.3	8.8
40～49歳	17.0	15.6	13.5
50～59歳	30.3	32.5	25.9
60～64歳	16.7	13.3	13.9
65～69歳	24.0	24.6	14.0
70歳以上			17.0
不明・無回答	1.8	1.7	3.5
合計	100.0	100.0	100.0
N	600	698	719



(2) 性別

〈本人調査〉

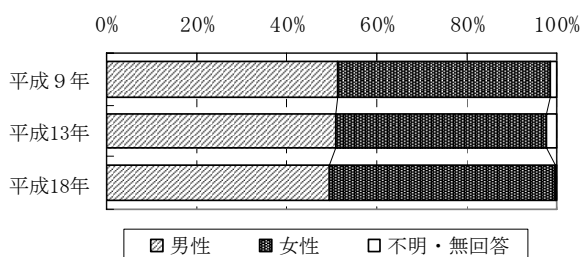
問2 あなたの性別をお答えください。

- ・ 入院患者の性別は、今回調査によると、男性が 49.5%、女性が 50.2%とほぼ半々の比率になっている。
- ・ 経年的には、女性の比率が微増傾向にある。

問2 性別

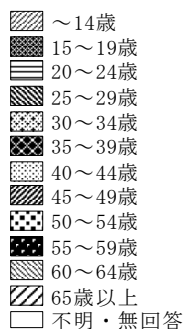
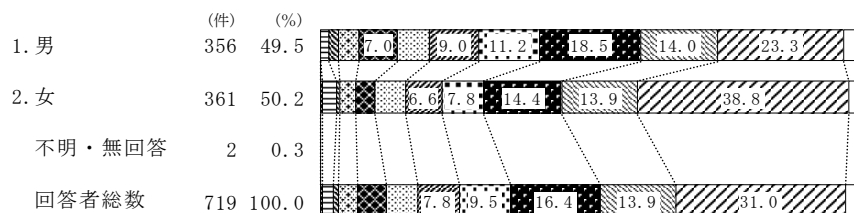
(単位:%)

	平成9年	平成13年	平成18年
男性	51.5	50.9	49.5
女性	47.0	46.8	50.2
不明・無回答	1.5	2.3	0.3
合計	100.0	100.0	100.0
N	600	698	719



- ・ 入院患者の「65歳以上」の比率を見ると、女性で 38.8%、男性で 23.3%となっており、女性は男性に比べて 15.5 ポイントも高く、高齢女性の入院患者の比率が高いことが、大きな特徴となっている。

問2 性別 × 問1 年齢



### (3) 配偶者の状況

〈本人調査〉

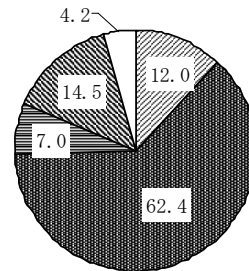
**問3 あなたの配偶者（夫又は妻）の有無等についてお答えください。**

- ・ 「未婚」が62.4%と最も多く、次いで「離婚」が14.5%、「夫又は妻有」が12.0%、「死別」が7.0%となっており、配偶者がいない人の割合は83.9%と8割を超える比率となっている。

問3 配偶者の状況

(単位:%)

	平成18年
夫又は妻有	12.0
未婚	62.4
死別	7.0
離婚	14.5
不明・無回答	4.2
合計	100.0
N	719



### (4) 世帯の人数

〈本人調査〉

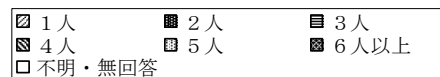
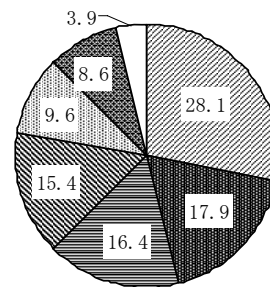
**問4 あなたのご家族の人数は何人ですか。あなた自身を含めてお答えください。**

- ・ 「1人」が最も多く28.1%を占め、次いで「2人」が17.9%、「3人」が16.4%などとなっている。

問4 世帯の人数

(単位:%)

	平成18年
1人	28.1
2人	17.9
3人	16.4
4人	15.4
5人	9.6
6人以上	8.6
不明・無回答	3.9
合計	100.0
N	719



(5) 世帯の生計中心者

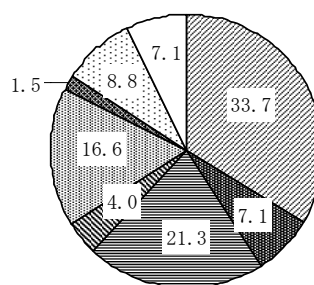
〈本人調査〉

問5 あなたのご家庭で主に家計を支えている方（生計中心者）はどなたですか。あなたからの続柄で1つお答えください。

・「本人」が33.7%で最も多く、次いで「父・母」が21.3%、「兄弟姉妹」が16.6%と続いている。

問5 世帯の生計中心者  
(単位:%)

	平成18年
本人	33.7
夫又は妻	7.1
父・母	21.3
子ども	4.0
兄弟姉妹	16.6
その他の親族	1.5
その他	8.8
不明・無回答	7.1
合計	100.0
N	719



■ 本人	■ 夫又は妻	■ 父・母
■ 子ども	■ 兄弟姉妹	■ その他の親族
■ その他	□ 不明・無回答	

## (6) 医療費の状況

〈本人調査〉

### 問6 あなたの現在の医療費はつぎのうちどれですか。

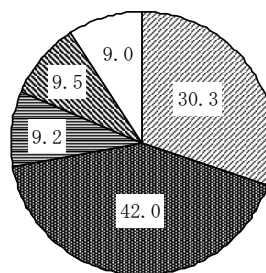
- ・ 今回調査では、「医療保険」が42.0%で最も多く、次いで「生活保護」が30.3%となっている。

問6 医療費の状況\*

(単位:%)

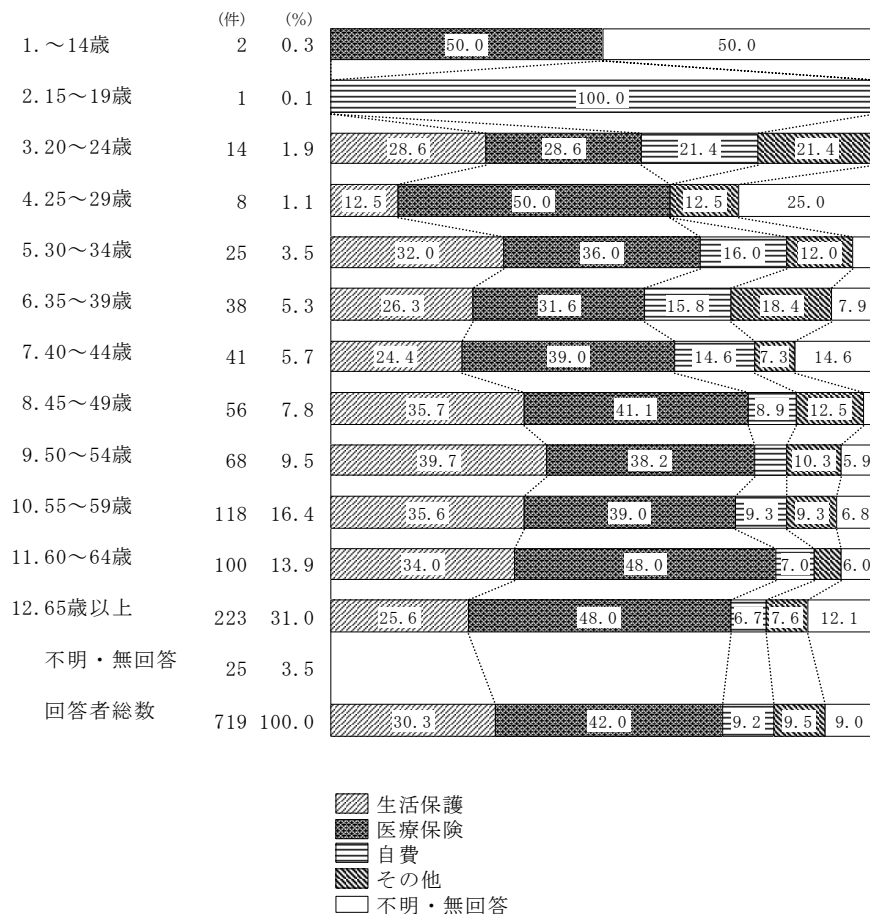
	平成9年	平成13年	平成18年
生活保護	35.2	33.0	30.3
医療保険	60.8	42.6	42.0
自費	0.5	12.8	9.2
その他	4.7	6.6	9.5
不明・無回答	0.7	6.4	9.0
合計	101.9	101.3	100.0
N	600	698	719

\* 平成18年以外は、複数回答



- ・ 年齢別で見ると、多くの年齢層で「医療保険」の比率が高く、次いで「生活保護」となっている。「医療保険」は「60～64歳」及び「65歳以上」でその比率は他の年齢層よりも高くなっているのが特徴的である。

問1 年齢 × 問6 医療費の状況



## 2. 精神疾患の種類・程度・内容

### (1) 精神疾患の種類

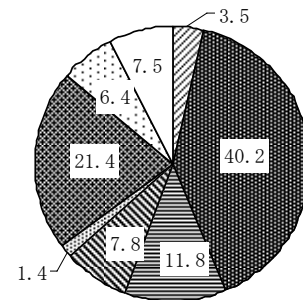
〈本人調査〉

#### 問7 あなたの精神疾患は、次のどれにあたりますか。

- ・ 「統合失調症，妄想性障害，非定型精神病」が 40.2%で最も多く，「気分（感情）障害（躁うつ病・うつ病を含む）」が 11.8%，「神経症，ストレス関連障害，身体表現性障害及び解離性障害」が 7.8%，「アルコール依存症，薬物依存症」が 3.5%となっている。

問7 精神疾患の種類

	(単位:%) 平成18年
アルコール依存症，薬物依存症	3.5
統合失調症，妄想性障害，非定型精神病	40.2
気分(感情)障害（躁うつ病・うつ病を含む）	11.8
神経症，ストレス関連障害，身体表現性障害及び解離性障害	7.8
てんかん	1.4
わからない	21.4
その他	6.4
不明・無回答	7.5
合計	100.0
N	719



- アルコール依存症，薬物依存症
- 統合失調症，妄想性障害，非定型精神病
- 気分(感情)障害（躁うつ病・うつ病を含む）
- 神経症，ストレス関連障害，身体表現性障害及び解離性障害
- てんかん
- わからない
- その他
- 不明・無回答



(2) 入院期間

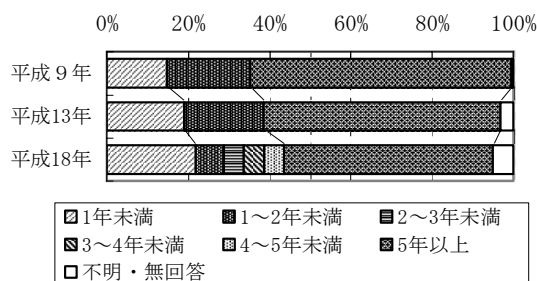
〈本人調査〉

問8 あなたの現在の入院期間は、つぎのうちどれですか。

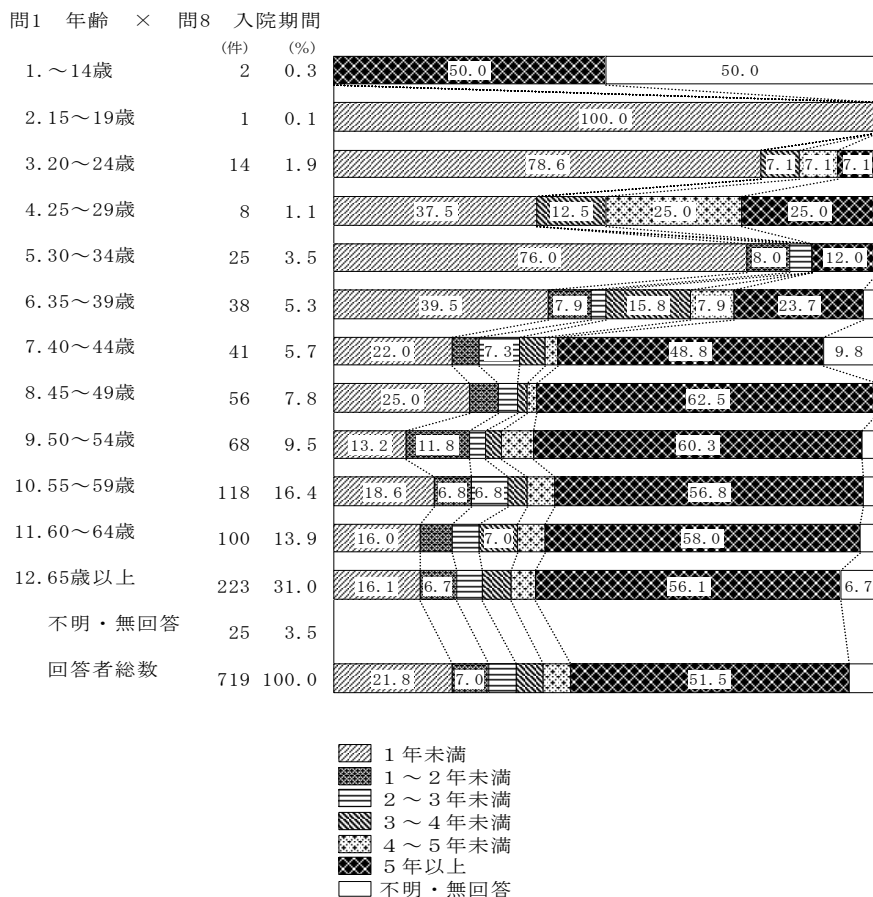
- ・ 今回調査では、「5年以上」が51.5%を占め、最も多くなっている。次いで「1年未満」と「1～5年未満」が共に21.8%となっている。
- ・ 経年的には、「5年以上」の比率が減少し、「1年未満」の比率が増加傾向にある。

問8 入院期間

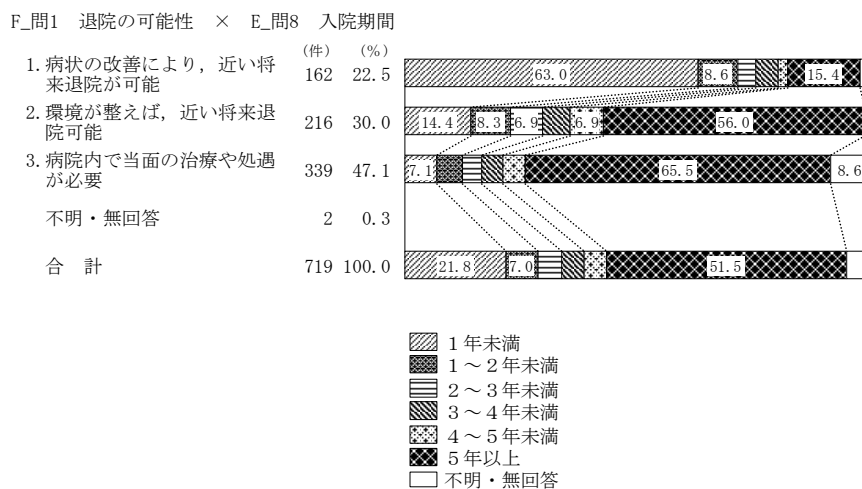
	(単位:%)		
	平成9年	平成13年	平成18年
1年未満	14.8	18.9	21.8
1～2年未満	20.3	19.6	7.0
2～3年未満			4.9
3～4年未満			5.0
4～5年未満			4.9
5年以上	64.3	58.2	51.5
不明・無回答	0.5	3.3	5.0
合計	100.0	100.0	100.0
N	600	698	719



- ・ 年齢別に見ると、40歳未満では入院期間が「1年未満」が多くなっているのに対し、40歳以上の年齢層では入院期間が「5年以上」の比率が高く、この年齢層を境にして入院の状況が大きく異なっているのが特徴的である。



・ 専門職が判断する退院の可能性と本人の入院期間の関係を見ると、「病状の改善により、近い将来退院が可能」では「1年未満」の比率が63.0%を占めるのに対し、「環境が整えば、近い将来退院可能」では「1年未満」が14.4%、「5年以上」が56.0%となっている。また「病院内で当面の治療や処遇が必要」では「1年未満」7.1%、「5年以上」が65.5%となっており、入院期間が長期にわたっているのは、専門職が治療や処遇を重度と判断する場合や環境が整わない場合であることが分かる。



### (3) 退院の可能性

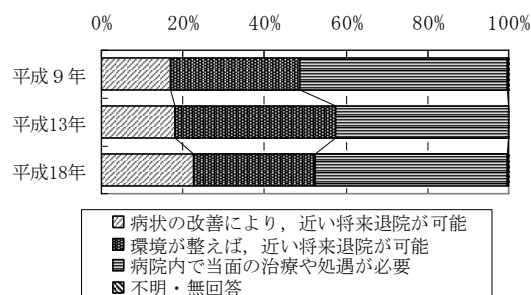
〈専門職調査〉

問1 ご本人は、近い将来（1年以内）に退院可能になりますか。あてはまるものについてお答えください。

- ・ 専門職が判断する入院患者の退院の可能性については、「病院内で当面の治療や処遇が必要」が47.1%で最も多く、次いで「環境を整えば、近い将来退院が可能」が30.0%、「病状の改善により、近い将来退院が可能」が22.5%となっており、病院での治療や処遇を必要としている人の比率が高くなっている。
- ・ 経年的には、「病状の改善により、近い将来退院が可能」の比率は増加傾向にあり、「環境を整えば、近い将来退院が可能」は前回調査と比べて減少傾向、「病院内で当面の治療や処遇が必要」は前回調査と比べて増加しており、軽度と重度の二極化の方向にあるように思われる。

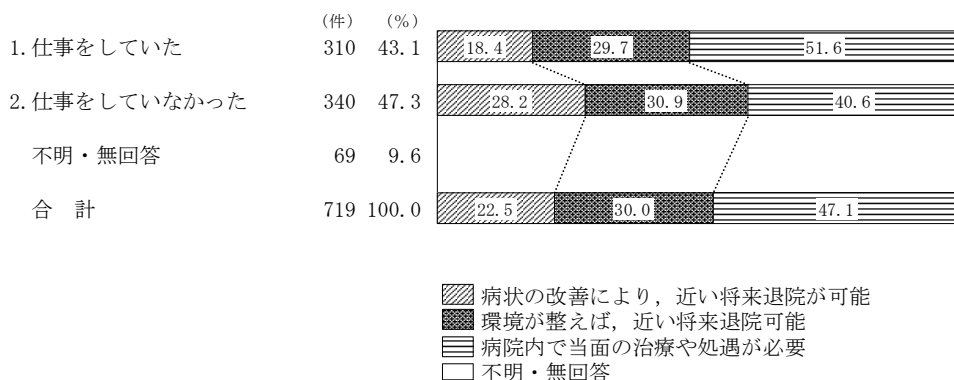
問1 退院の可能性

	(単位:%)		
	平成9年	平成13年	平成18年
病状の改善により、近い将来退院が可能	16.8	18.2	22.5
環境を整えば、近い将来退院が可能	32.0	39.4	30.0
病院内で当面の治療や処遇が必要	50.8	42.3	47.1
不明・無回答	0.3	0.1	0.3
合計	100.0	100.0	100.0
N	600	698	719



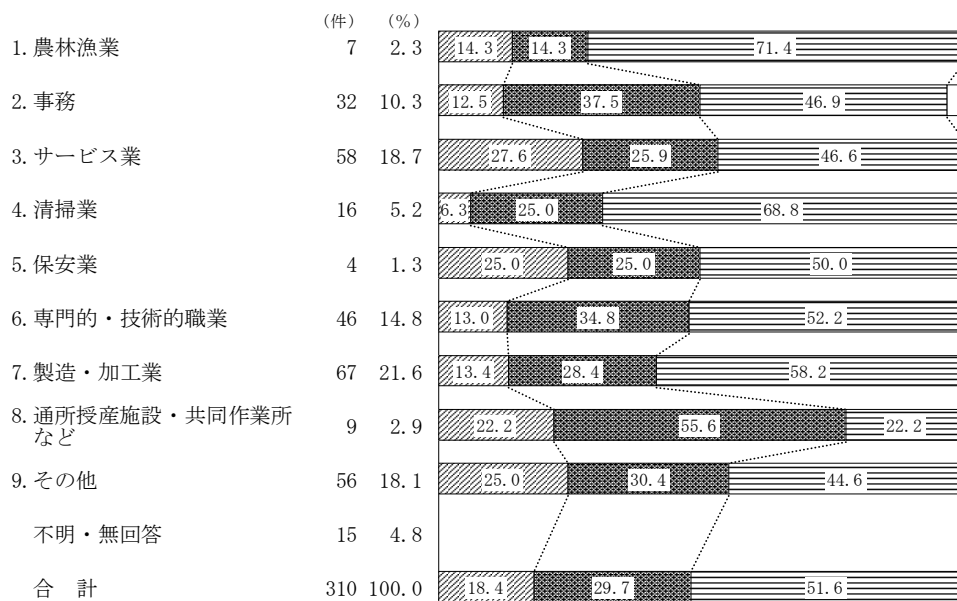
- ・ 入院前の就労状況との関係を見ると、「仕事をしていた」人は「仕事をしていなかった」人に比べて、「病院内で当面の治療や処遇が必要」の比率が高くなっているのに対し、「病状の改善により、近い将来退院が可能」の比率は低く、「仕事をしていない人」は退院が比較的難しい状況にある傾向が見られる。





E\_問17 入院前の就労状況 × F\_問1 退院の可能性



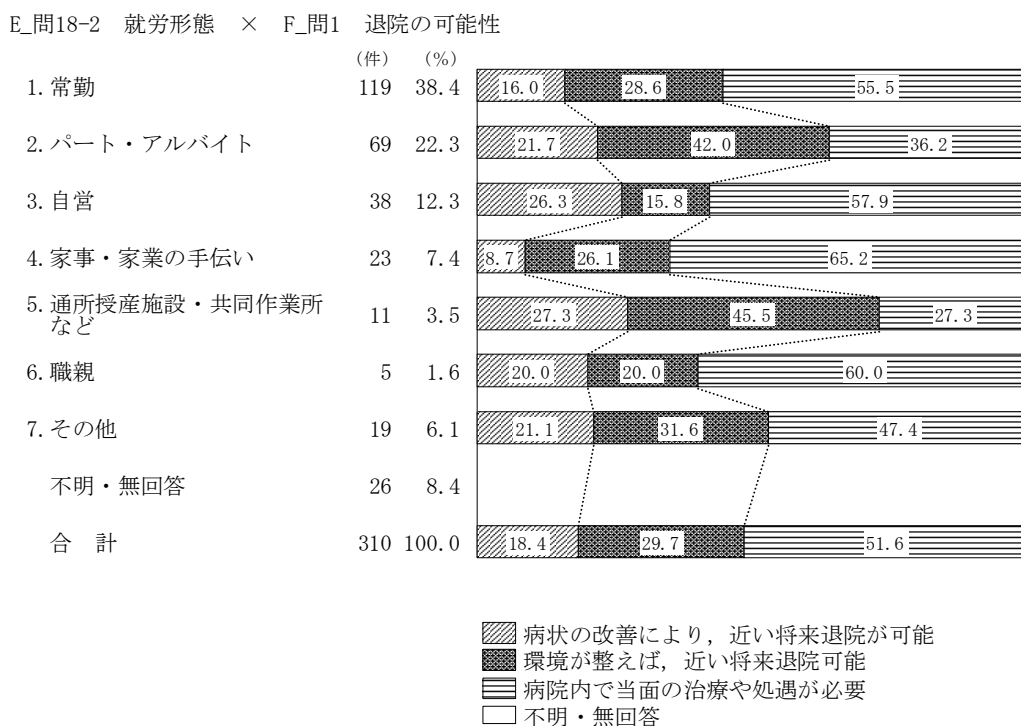
- 抽出数が少ない10件以下業種を除いて、就労していた業種別に見ると、「病状の改善により、近い将来退院が可能」の比率は、「サービス業」(27.8%)で高い。一方、「病院内で当面の治療や処遇が必要」の比率は、「清掃業」(68.8%),「製造・加工業」(58.2%),「専門的・技術的職業」(52.2%)などとなっている。

E\_問18-1 就労していた業種 × F\_問1 退院の可能性



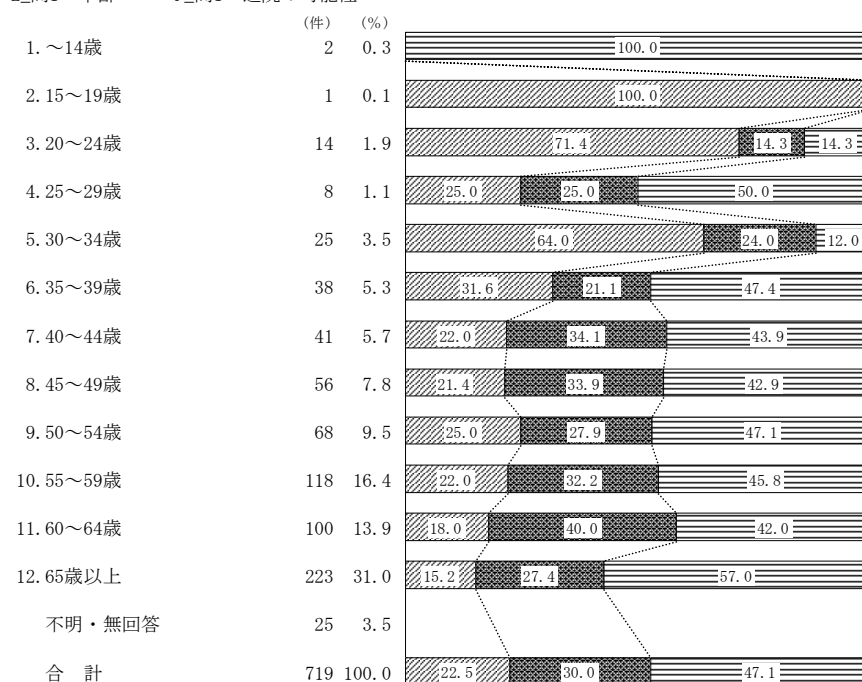
 病状の改善により、近い将来退院が可能  
 環境を整えば、近い将来退院可能  
 病院内で当面の治療や処遇が必要  
 不明・無回答





- 就労形態でも、抽出数が少ない10件以下業種を除いて傾向を見ると、「病状の改善により、近い将来退院が可能」の比率は、「通所授産施設・共同作業所など」(27.3%)、「自営」(26.3%)などで比較的高くなっている。一方、「病院内で当面の治療や処遇が必要」の比率は、「家事・家業の手伝い」(65.2%)、「自営」(57.9%)、「常勤」(55.5%)などで高く、「環境を整えば、近い将来退院が可能」の比率は、「通所授産施設・共同作業所など」(45.5%)、「パート・アルバイト」(42.0%)で高くなっている。



- 年齢別も、抽出数が少ない10件以下業種を除いて傾向を見ると、40歳以上では、いずれの年齢層も「病院内で当面の治療や処遇が必要」の比率が最も高く、次いで、「環境を整えば、近い将来退院が可能」、「病状の改善により、近い将来退院が可能」の順となっている。

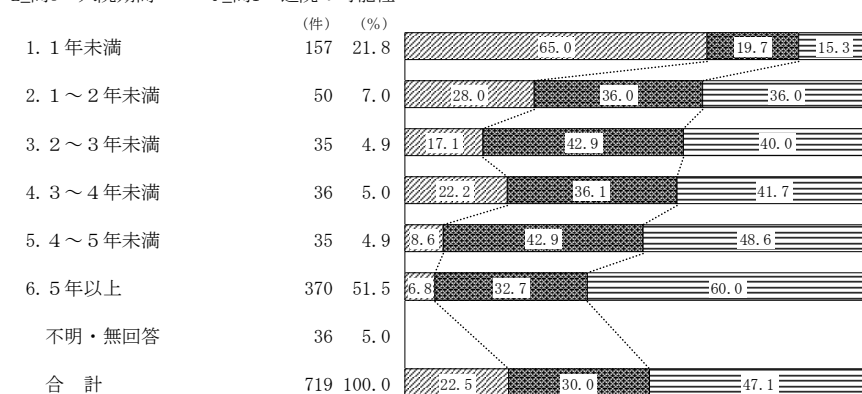
E\_問1 年齢 × F\_問1 退院の可能性







 病状の改善により、近い将来退院が可能  
 環境を整えば、近い将来退院可能  
 病院内で当面の治療や処遇が必要  
 不明・無回答

- 入院期間別では、入院期間が長いほど、「病院内で当面の治療や処遇が必要」の比率が高くなり、「病状の改善により、近い将来退院が可能」の比率が低下する傾向にある。

E\_問8 入院期間 × F\_問1 退院の可能性



 病状の改善により、近い将来退院が可能  
 環境を整えば、近い将来退院可能  
 病院内で当面の治療や処遇が必要  
 不明・無回答

#### (4) 精神障害者保健福祉手帳の等級

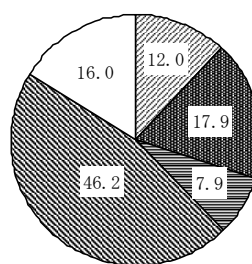
〈本人調査〉

**問9 あなたは精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。お持ちの場合は精神障害者保健福祉手帳を見て、等級（障害の程度）をお答えください**

- ・ 「1級」が12.0%、「2級」が17.9%、「3級」が7.9%、「持っていない」が46.2%となっている。

問9 精神障害者保健福祉手帳の等級  
(単位:%)

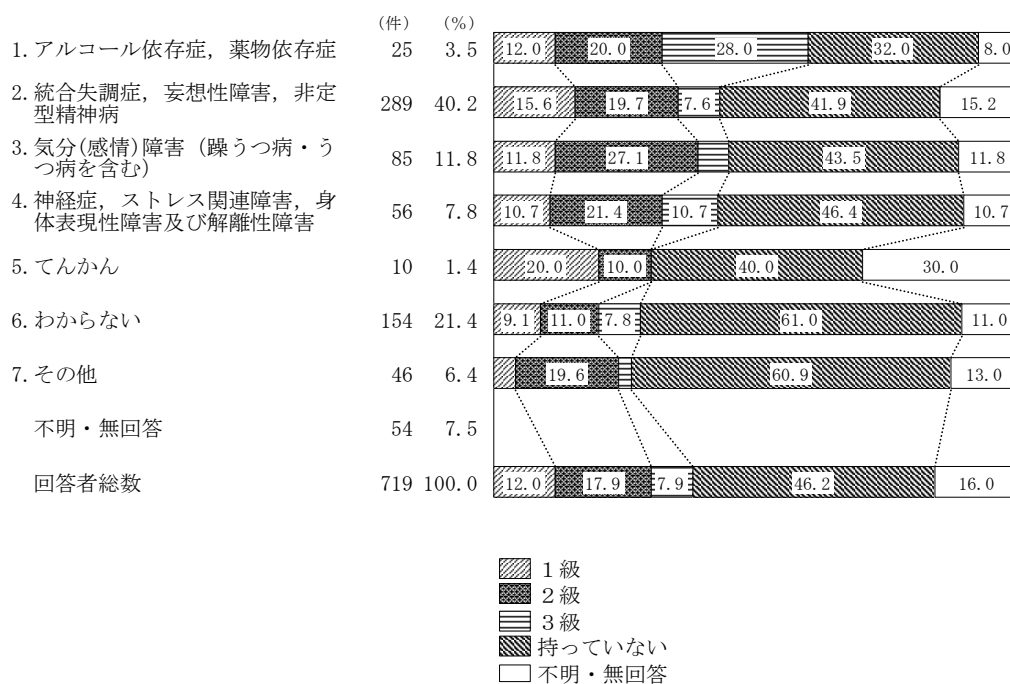
	平成18年
1級	12.0
2級	17.9
3級	7.9
持っていない	46.2
不明・無回答	16.0
合計	100.0
N	719



1級   
  2級   
  3級  
 持っていない   
 不明・無回答

- 疾患の種類と手帳の等級の関係をみると、いずれの疾患の種類においても、手帳を「持っていない」比率が高くなっているが、手帳を持っている人の状況を見ると、「アルコール依存症、薬物依存症」では3級の比率が高く、「統合失調症、妄想性障害、非定型精神病」、「気分（感情）障害（躁うつ病・うつ病を含む）」、「神経症、ストレス関連障害、身体表現性障害及び解離性障害」では2級の比率が高く、「てんかん」では1級の比率が高くなっている。

問7 精神疾患の種類 × 問9 精神障害者保健福祉手帳の等級





(5) 身体障害者手帳等の有無

〈本人調査〉

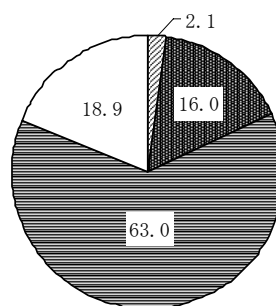
問10 あなたは、次の手帳をお持ちですか。

- ・ 「持っていない」が63.0%で最も多くなっている。「身体障害者手帳を保持」は16.0%、「療育手帳を保持」は2.1%である。

問10 身体障害者手帳等の有無

(単位:%)

	平成18年
療育手帳を保持	2.1
身体障害者手帳を保持	16.0
持っていない	63.0
不明・無回答	18.9
合計	100.0
N	719



療育手帳を保持       身体障害者手帳を保持  
 持っていない       不明・無回答

### 3. 生活の状況

#### (1) 日常生活動作（IADL）の状況

〈本人調査〉

問11 あなたの日常生活の動作についておたずねします。

あなたは次の(1)～(8)までの動作が一人でできますか。次の各動作ごとに、いずれか1つ、番号を選んでお答えください。

1. 介助の必要なし 2. 一部介助が必要 3. 全部介助が必要

- (1) 食事をする
- (2) トイレを使う
- (3) 入浴をする
- (4) 着替えをする
- (5) 家の中を歩く
- (6) 階段を昇り降りする
- (7) 家事（炊事・掃除・洗濯など）をする
- (8) 寝返りをする

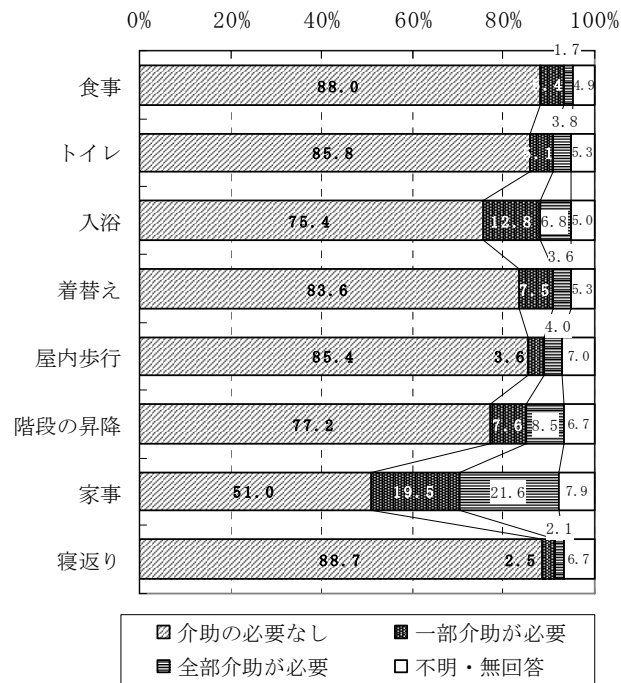
- ・ 日常生活動作（IADL）の中で、「何らかの介助が必要」（一部介助が必要＋全部介助が必要）である人の割合が高いものは、「家事」で41.1%、次いで、「入浴」が19.6%、「階段の昇降」が16.1%と続いている。介助の必要性が最も少ない動作は、「寝返り」(4.6%)となっている。

問11 日常生活動作の状況

(単位:%)

	食事		トイレ		入浴		着替え		屋内歩行		階段の昇降		家事		寝返り	
介助の必要なし	88.0		85.8		75.4		83.6		85.4		77.2		51.0		88.7	
一部介助が必要	5.4	7.1	5.1	8.9	12.8	19.6	7.5	11.1	3.6	7.6	7.6	16.1	19.5	41.1	2.5	4.6
全部介助が必要	1.7		3.8		6.8		3.6		4.0		8.5		21.6		2.1	
不明・無回答	4.9		5.3		5.0		5.3		7.0		6.7		7.9		6.7	
合計	100.0		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0	
N	719		719		719		719		719		719		719		719	

第7章 精神障害者生活状況調査（入院患者・専門職）結果



## (2) 退院後、生活していく上で必要なこと

〈本人調査〉

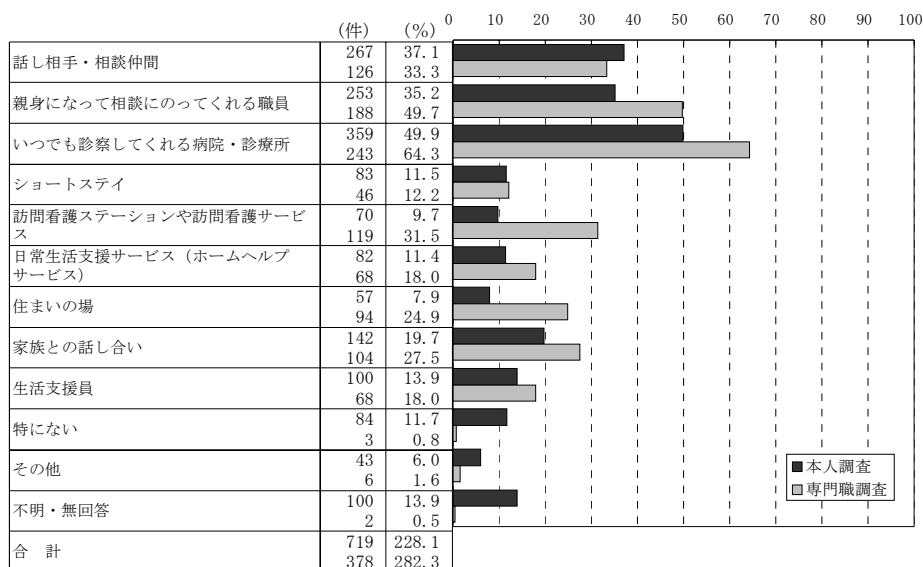
問12 あなたが、今後退院されるとしたら、地域で生活をしていくうえで、必要とするものはどれですか。主なものを3つまでお答えください。

〈専門職調査〉

問3 退院後、ご本人が地域で生活をしていくうえで、必要とする支援はどれですか。主なものを3つまでお答えください。

- ・ 本人調査と専門職調査を対比させてみると、本人調査よりも専門職調査の方が、全体的な傾向として多くの項目で比率が高くなっていることが分かる。
- ・ 比率の高い項目は、「いつでも診察してくれる病院・診療所」（本人：49.9%，専門職：64.3%）、「親身になって相談にのってくれる職員」（本人：35.2%，専門職：49.7%）、「話し相手・相談仲間」（本人：37.1%，専門職：33.3%）などである。また、「家族との話し合い」（本人：19.7%，専門職：27.5%）もそれに続いている。なお、本人調査と専門職調査で比率の差が最も大きい項目は「訪問看護ステーションや訪問看護サービス」（本人：9.7%，専門職：31.5%）であり、両者の間には21.8ポイントの差がある。

退院後、生活していく上で必要なこと 〈複数回答3〉



- ・ 経年的には、本人調査において、前回調査と比べて比率が上昇しているのは、「いつでも診察してくれる病院・診療所」、「親身になって相談にのってくれる職員」である。逆に比率が低下しているのは、「日常生活支援サービス（ホームヘルプサービス）」、「話し相手・相談仲間」、「訪問看護ステーションや訪問看護サービス」、「ショートステイ」などである。

第7章 精神障害者生活状況調査（入院患者・専門職）結果

〈本人調査〉

問12 退院後、生活していく上で必要なこと〈複数回答3〉\*

(単位:%)

	平成9年	平成13年	平成18年
話し相手・相談仲間	46.0	48.7	37.1
親身になって相談にのってくれる職員	32.2	33.5	35.2
いつでも診察してくれる病院・診療所	47.5	45.1	49.9
ショートステイ	24.3	18.2	11.5
訪問看護ステーションや訪問看護サービス	21.7	17.9	9.7
日常生活支援サービス（ホームヘルプサービス）	21.2	32.1	11.4
住まいの場	-	-	7.9
家族との話し合い	-	-	19.7
生活支援員	-	-	13.9
特にない	14.5	10.0	11.7
その他 *1	47.4	42.6	6.0
不明・無回答	0.0	1.6	13.9
合 計	254.8	249.7	228.1
N	600	698	719

\* 平成18年以外は、あてはまるものをすべて選択

\*1 平成18年以外は、「いつでも相談できる電話相談機関」と「自宅へ弁当を配達してくれる食事サービス」を含む。

- ・ また、専門職調査を経年的に見ると、前回調査と比べて比率が上昇している項目はなく、全ての項目で比率が減少している。これは設問方法の違い（回答数の違い）に起因するところが大いと考えられる。

〈専門職調査〉

問3 退院後、対象者が生活していく上で必要なこと〈複数回答3〉\*

(単位:%)

	平成13年	平成18年
話し相手・相談仲間	55.2	33.3
親身になって相談にのってくれる職員	60.9	49.7
いつでも診察してくれる病院・診療所	78.4	64.3
ショートステイ	27.9	12.2
訪問看護ステーションや訪問看護サービス	47.3	31.5
日常生活支援サービス（ホームヘルプサービス）	43.0	18.0
住まいの場	-	24.9
家族との話し合い	-	27.5
生活支援員	-	18.0
特にない	1.7	0.8
その他 *1	54.2	1.6
不明・無回答	0.2	0.5
合 計	368.9	282.3
N	402	378

\* 平成18年以外は、あてはまるものをすべて選択

\*1 平成18年以外は、「いつでも相談できる電話相談機関」と「自宅へ弁当を配達してくれる食事サービス」を含む。

### (3) ホームヘルパーに手伝ってほしいこと

〈本人調査〉

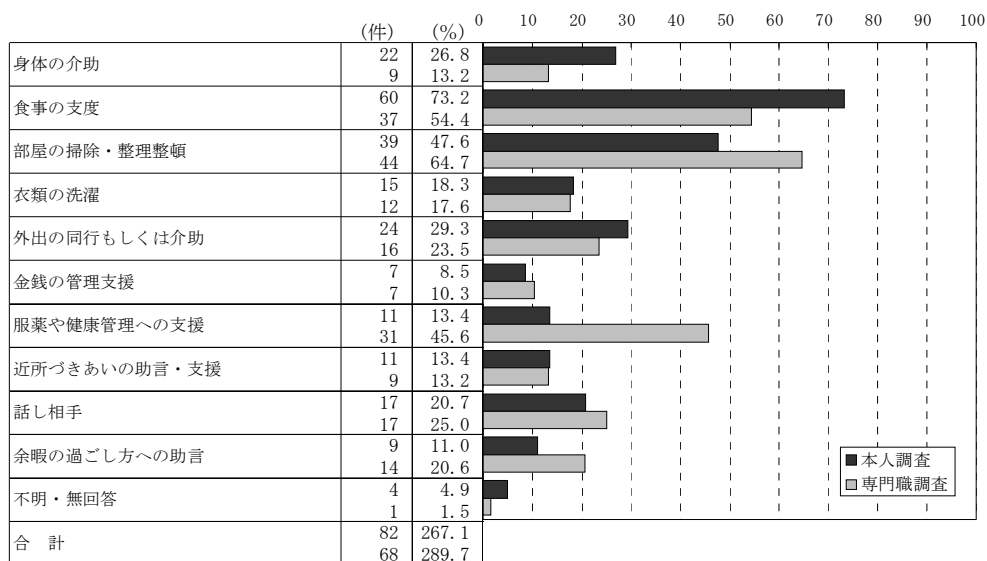
問13-1 「問12」で、「6. ホームヘルパーが自宅に来て、掃除や調理を手伝ってくれる日常生活支援サービス」とお答えの方) ホームヘルパーに手伝ってほしいことは何ですか。主なものを3つまでお答えください。

〈専門職調査〉

問4-1 「問3」で、「6. ホームヘルパーが自宅に来て、掃除や調理を手伝ってくれる日常生活支援サービス」とお答えの方) ホームヘルパーが行うサービスについて、ご本人にとって、どのようなサービス内容が適当であると思いますか。主なものを3つまでお答えください。

- 日常生活支援サービス（ホームヘルプサービス）の内容について、本人調査と専門職調査を対比させてみると、本人調査で比率の高い項目は「食事の支度」（73.2%）、「部屋の掃除・整理整頓」（47.6%）、「外出の同行もしくは介助」（29.3%）、「身体の介助」（26.8%）などとなっている。一方、専門職調査では、「部屋の掃除・整理整頓」（64.7%）、「食事の支度」（54.4%）、「服薬や健康管理への支援」（45.6%）などの比率が高く、本人調査、専門職調査とも期待が高い項目は、「食事の支度」、「部屋の掃除・整理整頓」である。専門職調査での特徴としては「服薬や健康管理の支援」への期待が大きく表れているところにある。

ホームヘルパーに手伝ってほしいこと（複数回答3）



- ・ 経年的な動向を見ると、本設問も過年度調査との設問方法の違い（回答数の違いや回答項目の変更）に留意する必要があるが、本人調査において比率が増加しているのは「食事の支度」のみであり、その他の項目はいずれも比率が低下している。最も比率の低下が大きい項目は、「外出の同行もしくは介助」であり、次いで「話し相手」、「服薬や健康管理への支援」などと続いている。
- ・ 一方、専門職調査で比率が増加しているのは、「部屋の掃除・整理整頓」のみであり、その他の項目はいずれも比率が低下している。比率の低下が大きい項目は、「外出の同行もしくは介助」であり、次いで「金銭の管理支援」、「服薬や健康管理への支援」などと続いている。これに関しても設問方法の違い（回答数の違いや回答項目の変更）の影響が大きいと考えられる。

〈本人調査〉

問13-1 ホームヘルパーに手伝ってほしいこと〈複数回答3〉\*  
(単位:%)

	平成13年	平成18年
身体の介助 *1	-	26.8
食事の支度	67.0	73.2
部屋の掃除・整理整頓	49.6	47.6
衣類の洗濯	37.1	18.3
外出の同行もしくは介助 *2	75.9	29.3
金銭の管理支援	26.8	8.5
服薬や健康管理への支援	37.1	13.4
近所づきあいの助言・支援	27.7	13.4
話し相手	46.9	20.7
余暇の過ごし方への助言	26.3	11.0
とくにない *3	5.8	-
その他 *3	1.3	-
不明・無回答	0.4	4.9
合 計	401.8	267.1
N	224	82

\* 平成13年は、あてはまるものをすべて選択

\*1 平成18年追加項目

\*2 平成18年以外は「日用品などの買い物の助言、支援」と「通院や公共交通機関の利用の支援」を含む。

\*3 平成18年削除項目

〈専門職調査〉

問4-1 最適なホームヘルプサービス〈複数回答3〉\*  
(単位:%)

	平成13年	平成18年
身体の介助 *1	-	13.2
食事の支度	74.0	54.4
部屋の掃除・整理整頓	61.8	64.7
衣類の洗濯	46.8	17.6
外出の同行もしくは介助 *2	94.8	23.5
金銭の管理支援	45.1	10.3
服薬や健康管理への支援	79.8	45.6
近所づきあいの助言・支援	43.9	13.2
話し相手	56.1	25.0
余暇の過ごし方への助言	38.7	20.6
とくにない *3	0.0	-
その他 *3	0.6	-
不明・無回答	0.0	1.5
合 計	541.6	289.7
N	173	68

\* 平成13年は、あてはまるものをすべて選択

\*1 平成18年追加項目

\*2 平成18年以外は「日用品などの買い物の助言、支援」と「通院や公共交通機関の利用の支援」を含む。

\*3 平成18年削除項目

- ・ 疾患の種類別に、日常生活支援サービス（ホームヘルプサービス）の内容について見ると、比較的回答者数の多い「統合失調症，妄想性障害，非定型精神病」では、「食事の支度」(63.9%)，「部屋の掃除・整理整頓」(52.8%)，「服薬や健康管理への支援」(27.8%)などへの期待が大きいことが分かる。

問7 精神疾患の種類 × 問13-1 ホームヘルパーに手伝ってほしいこと（複数回答3）

上段：実数（件）  
下段：横構成比（%）

問13-1		ホームヘルパーに手伝ってほしいこと（複数回答3）											回答者総数
問7		1. 身体 の介助	2. 食事の 支度	3. 部屋の 掃除・ 整理整 頓	4. 衣類の 洗濯	5. 外出の 同行も しくは 介助	6. 金銭の 管理支 援	7. 服薬や 健康管 理への 支援	8. 近所づ きあい の助言 ・支援	9. 話し相 手	10. 余暇の 過ごし 方への 助言	不明・ 無回答	
精神 疾患 の種 類	1. アルコール依存症，薬物依存症	0 0.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	2 100.0
	2. 統合失調症，妄想性障害，非定型精神病	6 16.7	23 63.9	19 52.8	5 13.9	9 25.0	3 8.3	10 27.8	4 11.1	9 25.0	4 11.1	3 8.3	36 100.0
	3. 気分(感情)障害（躁うつ病・うつ病を含む）	5 55.6	8 88.9	5 55.6	0 0.0	3 33.3	1 11.1	0 0.0	2 22.2	1 11.1	1 11.1	0 0.0	9 100.0
	4. 神経症，ストレス関連障害，身体表現性障害及び解離性障害	1 14.3	6 85.7	2 28.6	2 28.6	2 28.6	1 14.3	0 0.0	2 28.6	2 28.6	0 0.0	0 0.0	7 100.0
	5. てんかん	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
	6. わからない	6 28.6	17 81.0	9 42.9	4 19.0	8 38.1	2 9.5	1 4.8	2 9.5	3 14.3	3 14.3	0 0.0	21 100.0
	7. その他	2 50.0	3 75.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	4 100.0
	不明・無回答	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0
	回答者総数	22 26.8	60 73.2	39 47.6	15 18.3	24 29.3	7 8.5	11 13.4	11 13.4	17 20.7	9 11.0	4 4.9	82 100.0



#### (4) ホームヘルパーの利用希望時間帯等

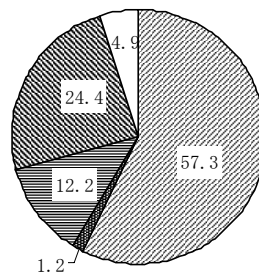
〈本人調査〉

問13-2 「問12」で、「6. ホームヘルパーが自宅に来て、掃除や調理を手伝ってくれる日常生活支援サービス」とお答えの方）ホームヘルパーを特にどのように利用したいですか。主なものを1つお答えください。

- ・ 「毎日利用したい」が57.3%と最も多く、次いで「その他」(24.4%)、「日曜や祝日に利用したい」(12.2%)などとなっている。「その他」の具体的な記述としては、「必要なとき」、「時間の空いているとき」などの回答が見られた。

問13-2 ホームヘルパーの利用希望時間帯等  
(単位:%)

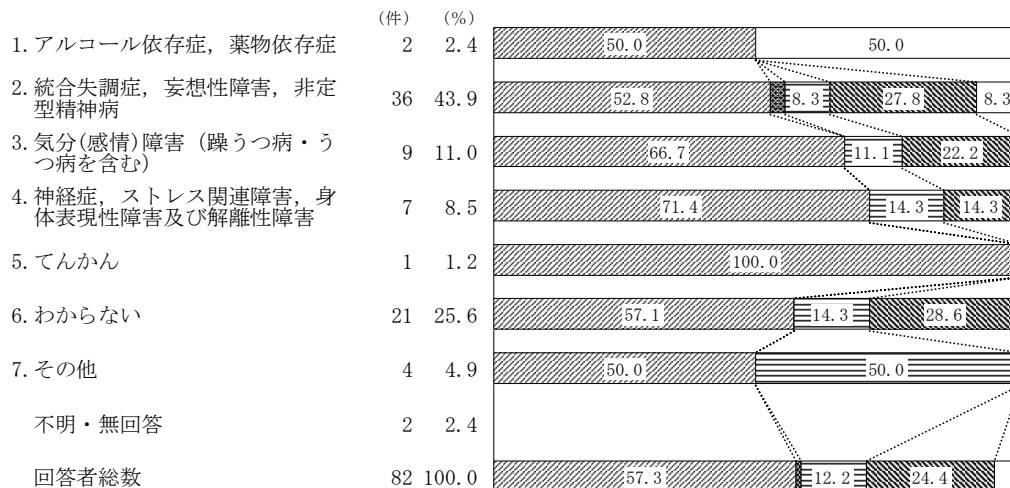
	平成18年
毎日利用したい	57.3
早朝・夜間に利用したい	1.2
日曜や祝日に利用したい	12.2
その他	24.4
不明・無回答	4.9
合計	100.0
N	82








毎日利用したい       早朝・夜間に利用したい  
 日曜や祝日に利用したい       その他  
 不明・無回答

- 疾患の種類別では、最も回答数の多い「統合失調症，妄想性障害，非定型精神病」を見ると、「毎日利用したい」が最も多く 52.8%を占め、次いで「その他」（27.8%）、「日曜や祝日に利用したい」（8.3%）となっている。

問7 精神疾患の種類 × 問13-2 ホームヘルパーの利用希望時間帯等



 毎日利用したい  
 早朝・夜間に利用したい  
 日曜や祝日に利用したい  
 その他  
 不明・無回答

(5) ホームヘルパーの1週間当たりの利用希望日数

〈本人調査〉

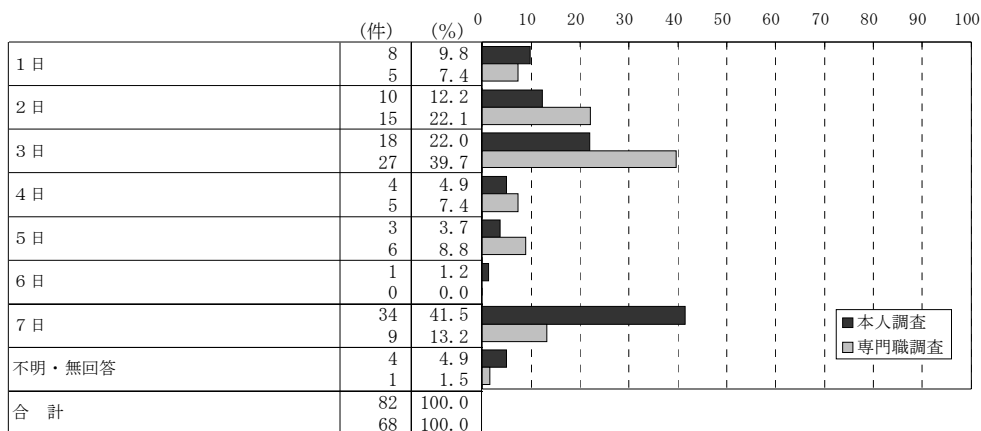
問13-3 「問12」で、「6. ホームヘルパーが自宅に来て、掃除や調理を手伝ってくれる日常生活支援サービス」とお答えの方) ホームヘルパーを1週間のうち何日利用したいですか。

〈専門職調査〉

問4-2 「問3」で、「6. ホームヘルパーが自宅に来て、掃除や調理を手伝ってくれる日常生活支援サービス」とお答えの方) ご本人は、ホームヘルパーを1週間のうち何日利用するのが適当だと思いますか。

- ・ 1週間のうちホームヘルパーを利用したい日数を、本人調査と専門職調査を対比させてみると、本人調査では「7日」(41.5%)、「3日」(22.0%)、「2日」(12.2%)などの順となっており、一方、専門職調査では、「3日」(39.7%)、「2日」(22.1%)などの順となっており、本人調査の方が利用希望日数は多くなる傾向が見られる。

ホームヘルパーの1週間当たりの利用希望日数



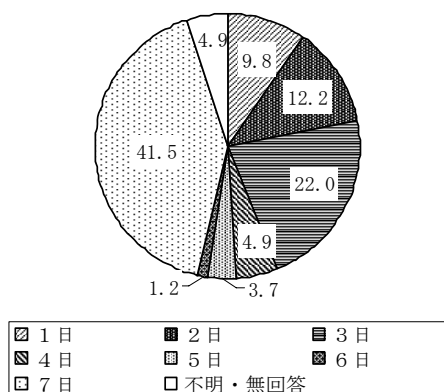
- ・ 経年的に見ると、本人調査では、週に「6日」と「7日」を合わせた比率は 42.7% であり、前回調査から 16.4 ポイント増加している。また、「4日」と「5日」を合わせた比率は 8.6% であり、前回調査を 6.4 ポイント上回っている。さらに「2日」と「3日」を合わせた比率は 34.2% であり、これも前回調査を 15.4 ポイント上回っている。その一方で、「1日」の比率は 9.8 ポイント減少しており、利用希望日数は全体的に増加する傾向にある。

〈本人調査〉

問13-3 ホームヘルパーの1週間当たりの  
利用希望日数

(単位:%)

	平成13年	平成18年
1ヶ月に1回*1	17.0	-
1ヶ月に2回*1	8.9	-
1ヶ月に3回*1	4.9	-
1日	19.6	9.8
2日*2	18.8	12.2
3日*2		22.0
4日*3	2.2	4.9
5日*3		3.7
6日*4	26.3	1.2
7日*4		41.5
不明・無回答	2.2	4.9
合計	100.0	100.0
N	224	82



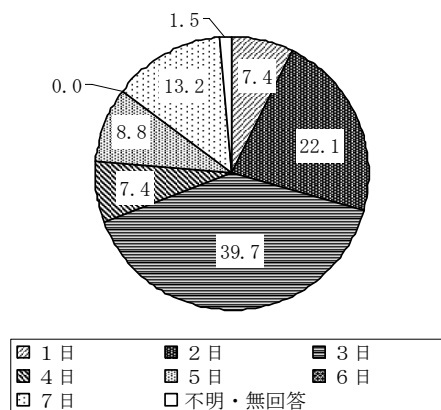
- \*1 平成18年削除項目
- \*2 平成13年は「1週間に2～3回」
- \*3 平成13年は「1週間に4～5回」
- \*4 平成13年は「ほぼ毎日」

〈専門職調査〉

問4-2 適切なホームヘルパーの利用日数(週)

(単位:%)

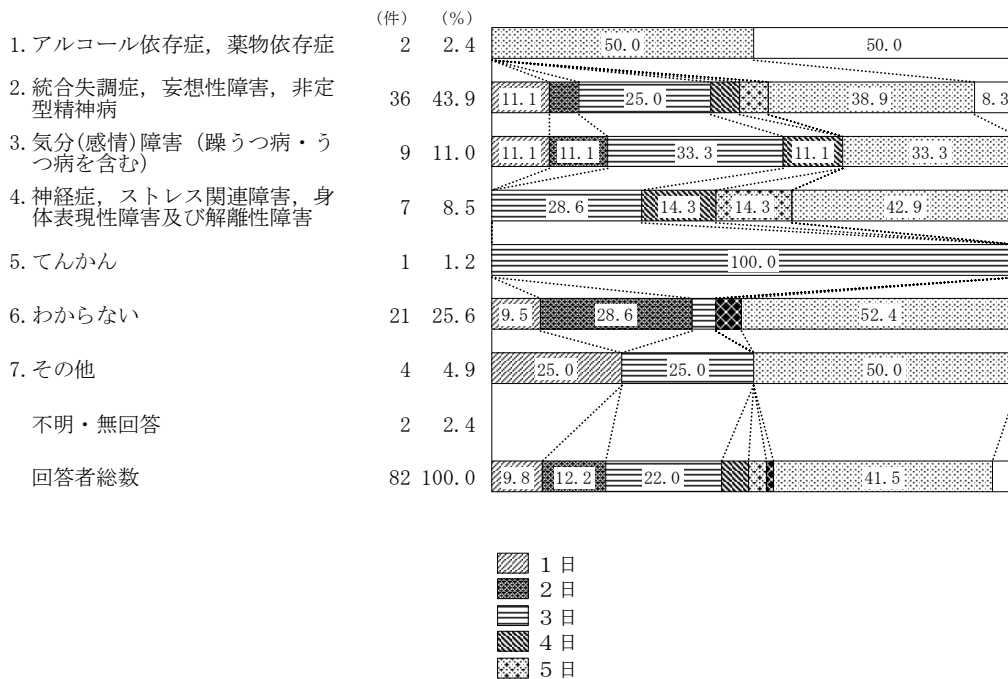
	平成13年	平成18年
1ヶ月に1回*1	0.6	-
1ヶ月に2回*1	1.7	-
1ヶ月に3回*1	2.3	-
1日	24.9	7.4
2日*2	39.3	22.1
3日*2		39.7
4日*3	9.2	7.4
5日*3		8.8
6日*4	17.3	0.0
7日*4		13.2
不明・無回答	4.6	1.5
合計	100.0	100.0
N	173	68



- \*1 平成18年削除項目
- \*2 平成13年は「1週間に2～3回」
- \*3 平成13年は「1週間に4～5回」
- \*4 平成13年は「ほぼ毎日」

- 疾患の種類別では、最も回答者の多い「統合失調症，妄想性障害，非定型精神病」を見ると、「7日」が38.9%で最も多く、次いで「3日」(25.0%)、「1日」(11.1%)となっている。

問7 精神疾患の種類 × 問13-3 ホームヘルパーの1週間当たりの利用希望日数



## (6) ホームヘルパーの利用希望時間数

〈本人調査〉

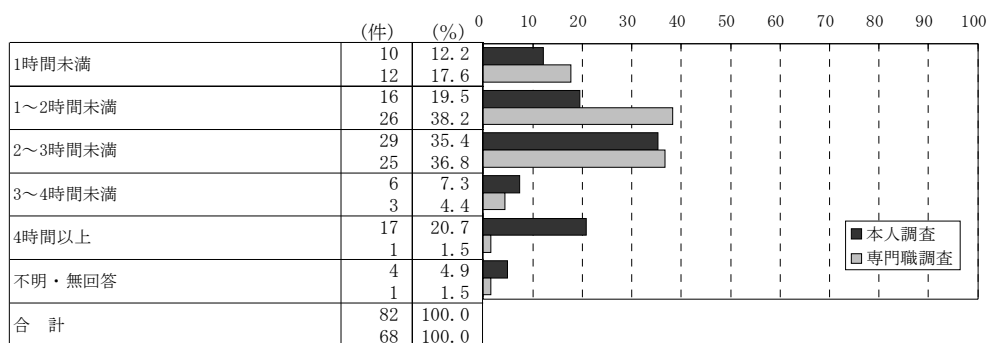
問13-4 「問12」で、「6. ホームヘルパーが自宅に来て、掃除や調理を手伝ってくれる日常生活支援サービス」とお答えの方) ホームヘルパーを1日に何時間利用したいですか。

〈専門職調査〉

問4-3 「問3」で、「6. ホームヘルパーが自宅に来て、掃除や調理を手伝ってくれる日常生活支援サービス」とお答えの方) ご本人は、ホームヘルパーを1日のうち何時間利用するのが適当だと思いますか。

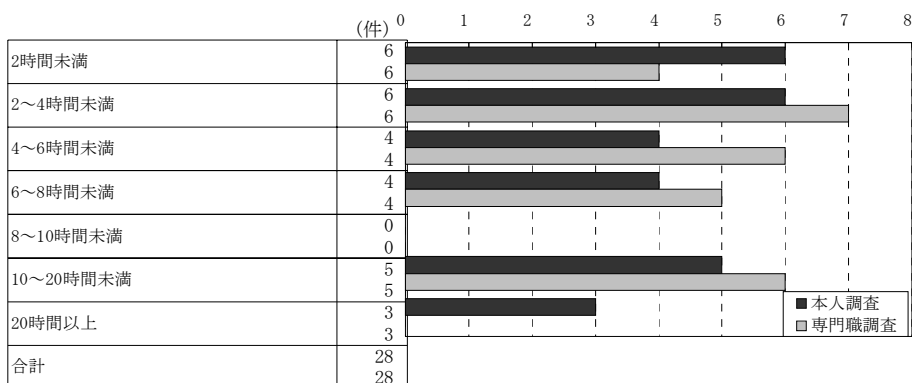
- ・ 本人調査においては、「2～3時間未満」が35.4%で最も多く、次いで「4時間以上」が20.7%、「1～2時間未満」が19.5%、「1時間未満」が12.2%と続いている。専門職調査では、「1～2時間未満」が38.2%、「2～3時間未満」が36.8%、「1時間未満」が17.6%などとなっており、本人調査の方が利用希望時間は長くなる傾向が見られる。
- ・ しかし、本人調査及び専門職調査において、1週間当たりの利用希望延べ時間分布を算出すると、専門職の方が本人よりも利用希望時間数が多くなっており、専門職が長い利用時間を必要と判断している状況がうかがえる。

ホームヘルパーの利用希望時間数



第7章 精神障害者生活状況調査（入院患者・専門職）結果

ホームヘルパーの利用希望延べ時間分布（週当たり）



\* 算出方法：入院患者と担当の専門職が共に、利用希望時間数と利用希望日数の両方を回答した個人のデータから、利用希望時間数(1日)×利用希望日数(週)を積み上げたもの (n=28)

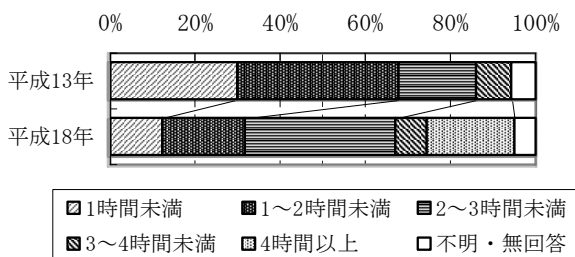
- ・ 経年的には、本人調査、専門職調査とも、前回調査と比べて利用希望時間数は増加する傾向が見られる。

〈本人調査〉

問13-4 ホームヘルパーの利用希望時間数 (単位:%)

	平成13年	平成18年
1時間未満*1	34.8	12.2
1～2時間未満	28.6	19.5
2～3時間未満	15.2	35.4
3～4時間未満*2	18.8	7.3
4時間以上*2		20.7
不明・無回答	2.7	4.9
合計	100.0	100.0
N	224	82

- \*1 平成13年は「30分未満」「30分～1時間未満」を足した数値
- \*2 平成13年は「3時間以上」

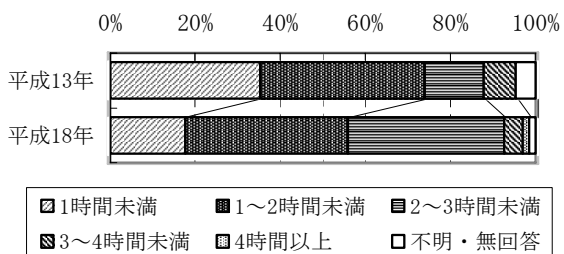


〈専門職調査〉

問4-3 適切なホームヘルパーの利用時間(日) (単位:%)

	平成13年	平成18年
1時間未満*1	35.3	17.6
1～2時間未満	38.7	38.2
2～3時間未満	13.9	36.8
3～4時間未満*2	7.5	4.4
4時間以上*2		1.5
不明・無回答	4.6	1.5
合計	100.0	100.0
N	173	68

- \*1 平成13年は「30分未満」「30分～1時間未満」を足した数値
- \*2 平成13年は「3時間以上」



## (7) 入院前の日中の過ごし方

〈本人調査〉

**問14 今回入院する前に、日中どのように過ごしておられましたか。主なものを2つまでお答えください。**

- ・ 今回調査では、「その他」が 40.2%で最も多く、次いで、「精神保健福祉サービスは利用せず」が 32.1%、「デイ・ケアに参加」が 12.7%となっている。なお「その他」の具体的回答には、「家で過ごしていた」、「何もしていない」、「家事」、「仕事」、「他の病院に入院」などの記述が多く見られた。
- ・ 経年的には、「精神保健福祉サービスは利用せず」の比率が低下しているが、「その他」の比率が増加する状況が見られる。

問14 入院前の日中の過ごし方（複数回答2）\*

(単位:%)

	平成13年	平成18年
デイ・ケアに参加	12.0	12.7
グループ活動に参加	2.6	4.2
障害者地域生活支援センターに通所	5.6	6.3
こころのふれあい交流サロンに参加	1.7	5.4
通所授産施設、共同作業所に通所 *1	-	4.7
精神保健福祉サービスは利用せず	59.5	32.1
その他	17.0	40.2
不明・無回答	4.3	20.2
合計	102.7	125.7
N	698	719

\* 平成13年はあてはまるものをすべて選択

\*1 平成18年追加項目



第7章 精神障害者生活状況調査（入院患者・専門職）結果

- 年齢別では、30歳未満の層は回答者数が少なく明確な傾向は見られない。30歳以上の年齢層では、全体的に「精神保健福祉サービスは利用せず」と「その他」が多くなっているが、その他で比較的比率の高い回答としては、「30～34歳」の層で「障害者地域生活支援センター」（20.0%）、「デイ・ケアに参加」（20.0%）などが見られる。また、「35～39歳」の層で「デイ・ケアに参加」（23.7%）の比率が相対的に高くなっている。

問1 年齢 × 問14 入院前の日中の過ごし方（複数回答2）

上段：実数（件）  
下段：構成比（%）

問14		入院前の日中の過ごし方（複数回答2）								回答者総数				
問1	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	不 明 ・ 回 答						
年齢	1.～14歳	2.15～19歳	3.20～24歳	4.25～29歳	5.30～34歳	6.35～39歳	7.40～44歳	8.45～49歳	9.50～54歳	10.55～59歳	11.60～64歳	12.65歳以上	不明・無回答	回答者総数
	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	2 100.0					
	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0					
	2 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 14.3	6 42.9	7 50.0	1 7.1	14 100.0					
	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	6 75.0	1 12.5	8 100.0					
	5 20.0	2 8.0	5 20.0	1 4.0	2 8.0	8 32.0	11 44.0	2 8.0	25 100.0					
	9 23.7	2 5.3	1 2.6	1 2.6	2 5.3	12 31.6	14 36.8	8 21.1	38 100.0					
	7 17.1	4 9.8	4 9.8	4 9.8	4 9.8	12 29.3	11 26.8	8 19.5	41 100.0					
	6 10.7	4 7.1	3 5.4	4 7.1	7 12.5	15 26.8	24 42.9	12 21.4	56 100.0					
	10 14.7	4 5.9	8 11.8	4 5.9	1 1.5	23 33.8	28 41.2	10 14.7	68 100.0					
	12 10.2	3 2.5	8 6.8	9 7.6	4 3.4	39 33.1	42 35.6	28 23.7	118 100.0					
	19 19.0	5 5.0	6 6.0	7 7.0	4 4.0	41 41.0	38 38.0	11 11.0	100 100.0					
	17 7.6	4 1.8	9 4.0	8 3.6	7 3.1	68 30.5	101 45.3	52 23.3	223 100.0					
	3 12.0	2 8.0	1 4.0	0 0.0	1 4.0	5 20.0	6 24.0	11 44.0	25 100.0					
	91 12.7	30 4.2	45 6.3	39 5.4	34 4.7	231 32.1	289 40.2	145 20.2	719 100.0					

(8) 退院後の活動の場に対する意向

〈本人調査〉

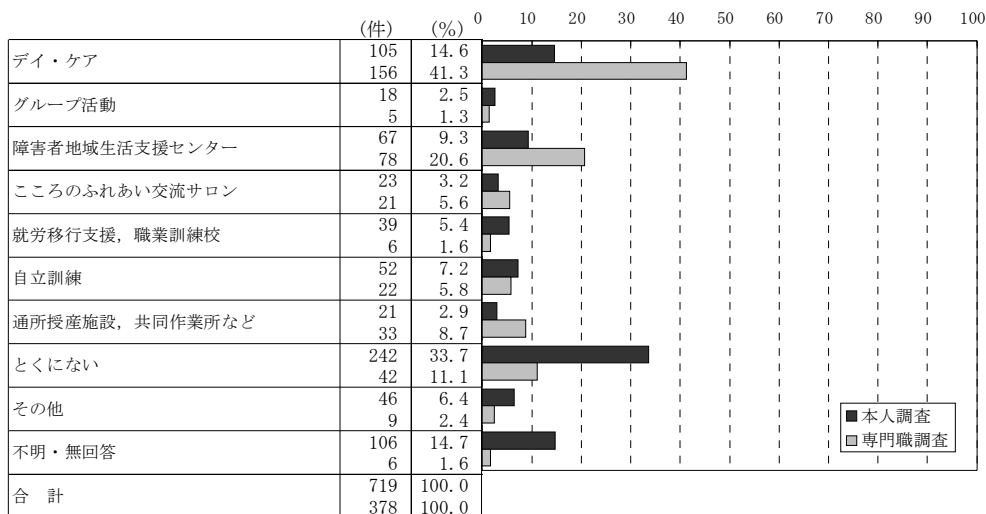
問15 あなたが、今後退院されるとしたら、つぎにあげる日中の活動の場のうち利用してみたいと思われるものは次のどれですか。主なものを1つお答えください。

〈専門職調査〉

問5 退院後、ご本人に最も適当だと思われる日中の活動の場はどれですか。

- ・ 退院後の活動の場については、本人調査では「デイ・ケア」が14.6%、「障害者地域生活支援センター」が9.3%、「自立訓練」が7.2%などとなっているが、「とくにない」が33.7%で最も多い。専門職調査では「デイ・ケア」が41.3%、「障害者地域生活支援センター」が20.6%、「通所授産施設、共同作業所など」が8.7%などとなっている。

退院後の活動の場に対する意向



- ・ 本人調査を経年的に見ても、「とくにない」の比率が最も高い。なお、「障害者地域生活支援センター」の比率は低下する傾向にある。

〈本人調査〉

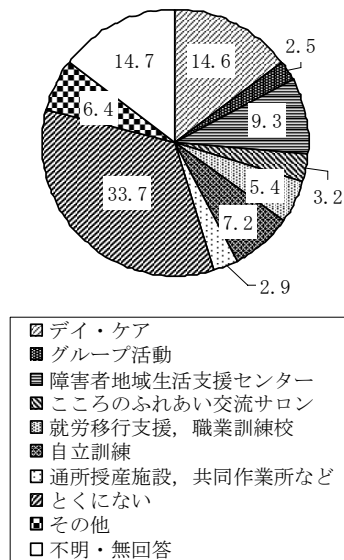
問15 退院後の活動の場に対する意向\*

(単位:%)

	平成9年	平成13年	平成18年
デイ・ケア	15.7	18.9	14.6
グループ活動	4.0	5.3	2.5
障害者地域生活支援センター	22.5	15.6	9.3
こころのふれあい交流サロン	4.7	7.2	3.2
就労移行支援, 職業訓練校*1	-	-	5.4
自立訓練*1	-	-	7.2
通所授産施設, 共同作業所など*	-	-	2.9
とくにない	38.8	44.3	33.7
その他	8.0	6.2	6.4
不明・無回答	6.3	3.9	14.7
合計	100.0	101.3	100.0
N	600	698	719

\* 平成13年は複数回答処理

\*1 平成18年追加項目



- ・ 専門職調査を経年的に見ると、「デイ・ケア」が 41.3%、「障害者地域生活支援センター」が 20.6%などとなっており、この両者の項目は前回調査でも比率が高かった。

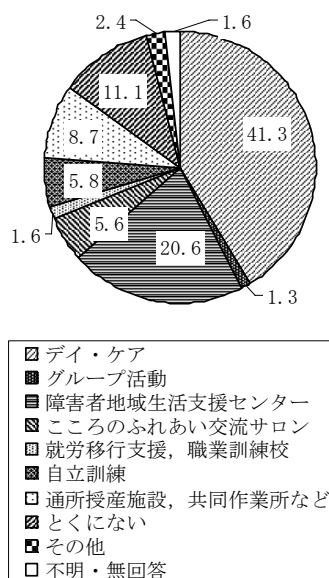
〈専門職調査〉

問5 最適と思われる退院後の活動の場

(単位:%)

	平成13年	平成18年
デイ・ケア	47.5	41.3
グループ活動	2.2	1.3
障害者地域生活支援センター	27.4	20.6
こころのふれあい交流サロン	8.5	5.6
就労移行支援, 職業訓練校*	-	1.6
自立訓練*	-	5.8
通所授産施設, 共同作業所など*	-	8.7
とくにない	12.7	11.1
その他	0.7	2.4
不明・無回答	1.0	1.6
回答者総数	100.0	100.0
N	402	378

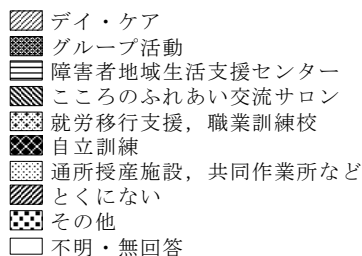
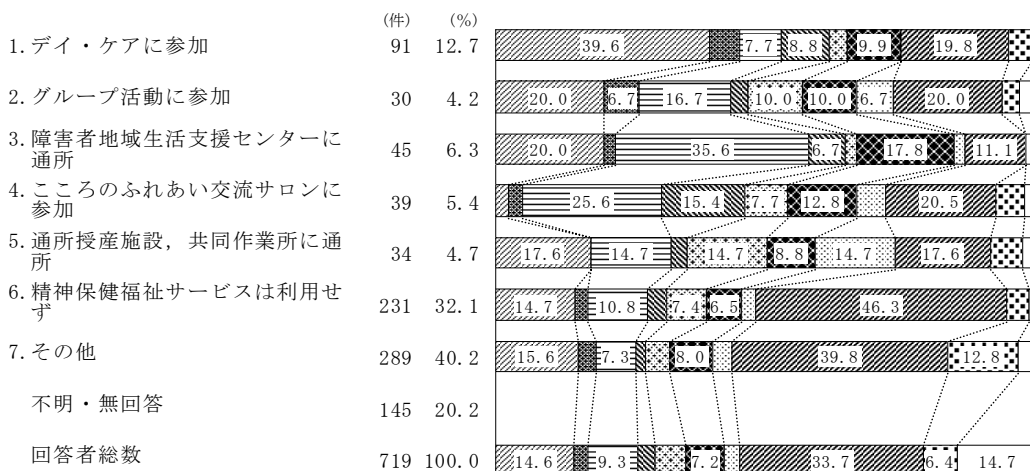
\*1 平成18年追加項目



- 入院前の日中の過ごし方と退院後の活動の場との関係について見ると、入院前に「デイ・ケア」を利用している人は、退院後も「デイ・ケア」の利用意向が強く表れている。また、入院前に「障害者地域生活支援センター」を利用している人は、退院後も「障害者地域生活支援センター」の利用意向が強くなっており、概ね、入院前の日中の過ごし方と同じ形態のものを指向する状況がうかがえる。

<本人調査>

問14 入院前の日中の過ごし方（複数回答2） × 問15 退院後の活動の場に対する意向



## 4. 住まいの状況

### (1) 退院後に希望する生活の場

〈本人調査〉

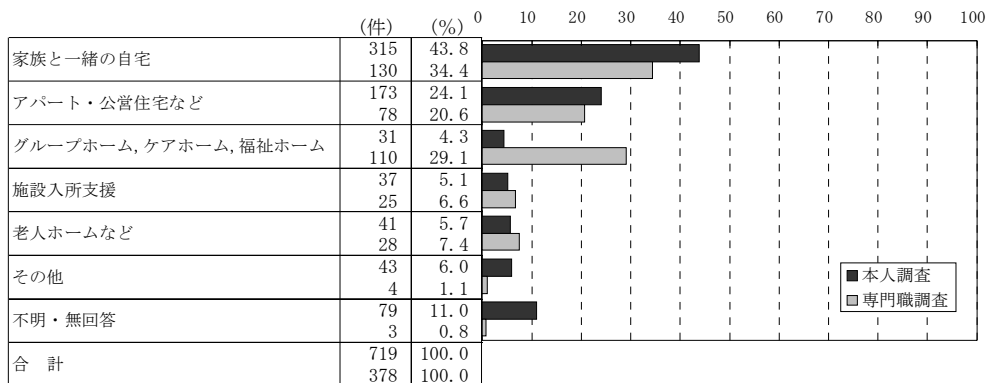
問16 あなたが、退院後生活をしていくとしたら、どのようなところで暮らしたいと思われませんか。主なものを1つお答えください。

〈専門職調査〉

問2 退院後、ご本人が生活をしていくとしたら、「生活の場」として最も適当だと思われるのはどこですか。

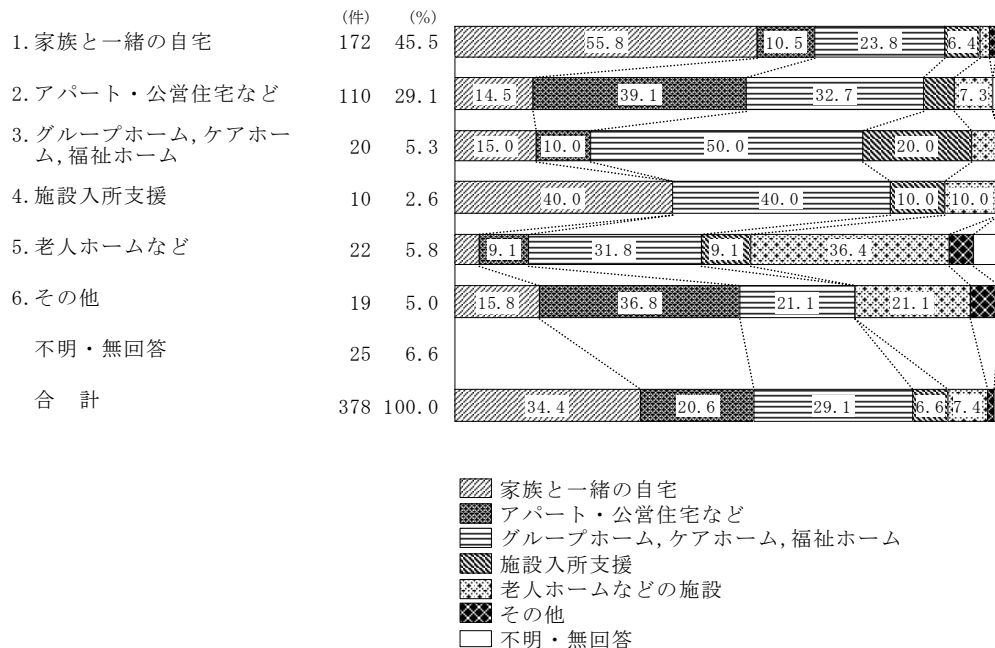
- 本人調査では、「家族と一緒にの自宅」が43.8%と最も多く、次いで「アパート・公営住宅など」の24.1%、「老人ホームなど」が5.7%などとなっている。また、専門職調査では、「家族と一緒にの自宅」が34.4%、「グループホーム、ケアホーム、福祉ホーム」が29.1%、「アパート・公営住宅など」が20.6%などとなっている。

退院後に希望する生活の場



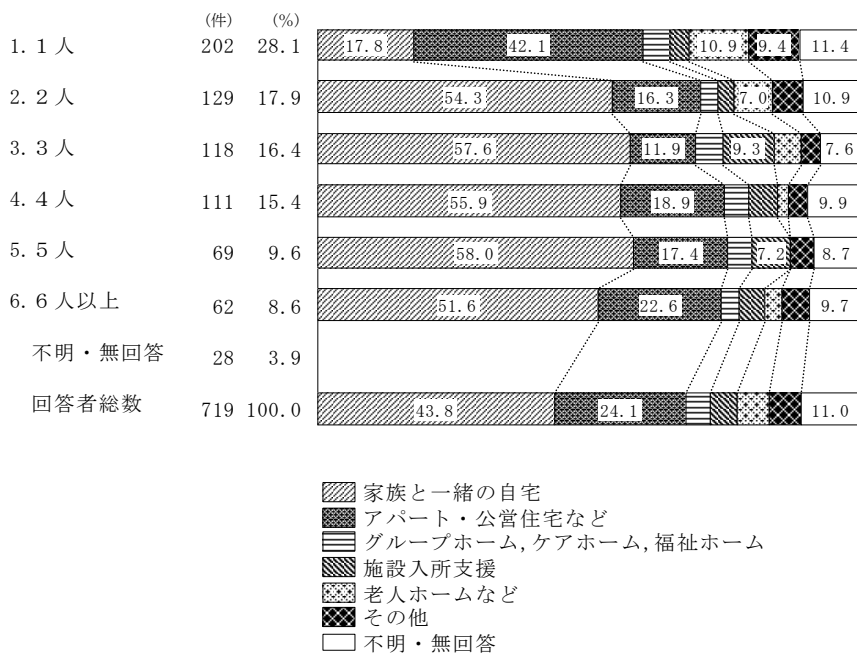
- 本人が「退院後に希望する生活の場」と、専門職が考える「最適だと思われる退院後の生活の場」との比較では、本人希望と専門職意識では「家族と一緒にの自宅」、「グループホーム、ケアホーム、福祉ホーム」の比率が、共通して高くなっている。また、本人が「アパート・公営住宅など」を希望する場合は、専門職は「アパート・公営住宅など」と「グループホーム、ケアホーム、福祉ホーム」の両方を挙げている。このように全体としては、本人の希望する生活の場と専門職が考える生活の場は一致する傾向にあるが、専門職では、本人に比べて「グループホーム、ケアホーム、福祉ホーム」を重視する傾向がうかがえる。

E\_問16 退院後に希望する生活の場 × F\_問2 最適と思われる退院後の生活の場



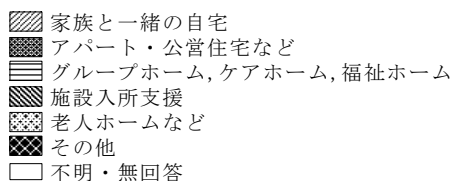
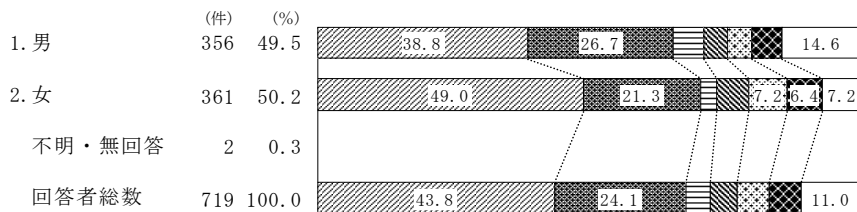
・ 本人調査の世帯の人数と退院後に希望する生活の場との関係では、「1人」の世帯を除くと「家族と一緒にの自宅」の比率が50%を超えて最も高く、次いで「アパート・公営住宅など」と続いている。

問4 世帯の人数 × 問16 退院後に希望する生活の場

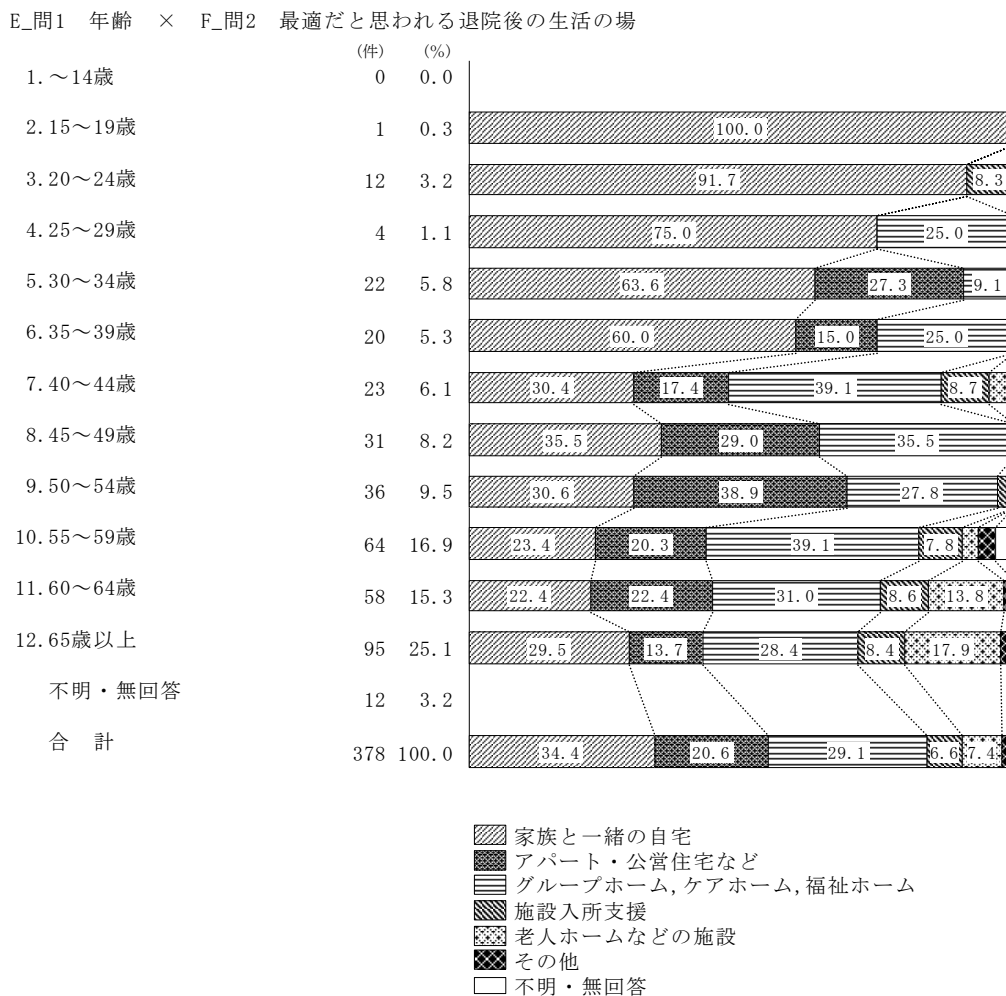


- 本人調査の性別と退院後の生活の場との関係では、女性は男性に比べて「家族と一緒に自宅」の比率が10.2ポイント高くなっている。

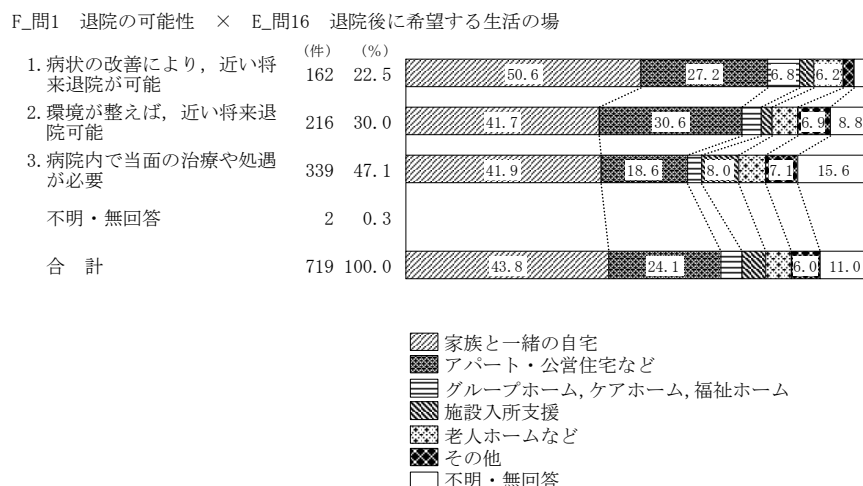
問2 性別 × 問16 退院後に希望する生活の場



- 本人調査の年齢と専門職が考える退院後の生活の場との関係では、年齢層が上がるにつれて、「家族と一緒に自宅」の比率が減少する傾向が見られる。また、30歳以上は、「アパート・公営住宅など」の比率が見られるが、40歳以上では「グループホーム、ケアホーム、福祉ホーム」の比率が高くなる状況がうかがえる。



・ 専門職が考える「退院の可能性」と本人が考える「退院後に希望する生活の場」の関係については、本人は専門職の意向とは関係無く「家族と一緒に自宅」を希望する比率が高い。また、「アパート・公営住宅など」の比率もそれに次いで高くなっている。





## 5. 就労（仕事）・収入の状況

### (1) 入院前の就労状況

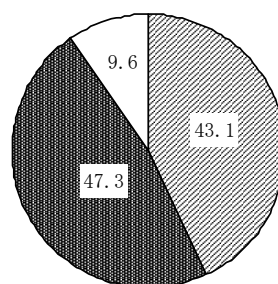
〈本人調査〉

問17 あなたは、今回入院する前に、仕事をしていましたか。

- ・ 「仕事をしていた」が43.1%、「仕事をしていなかった」が47.3%となっており、「仕事をしていなかった」の方が若干多い。

問17 入院前の就労状況

	平成18年
仕事をしていた	43.1
仕事をしていなかった	47.3
不明・無回答	9.6
合計	100.0
N	719



■ 仕事をしていた    ■ 仕事をしていなかった  
□ 不明・無回答

- ・ 性別では、男性は女性に比べて「仕事をしていた」の比率が高くなっている。

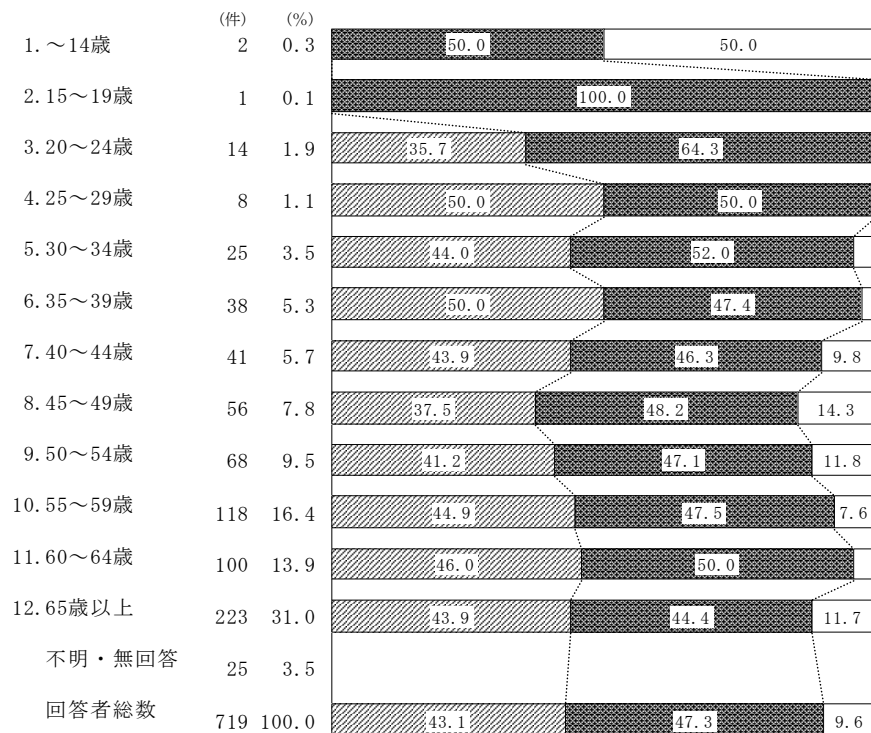
問2 性別 × 問17 入院前の就労状況




性別	(件)	(%)	仕事をしていた (%)	仕事をしていなかった (%)	不明・無回答 (%)
1. 男	356	49.5	46.1	41.6	12.4
2. 女	361	50.2	40.4	52.9	6.6
不明・無回答	2	0.3			
回答者総数	719	100.0	43.1	47.3	9.6

▨ 仕事をしていた  
■ 仕事をしていなかった  
□ 不明・無回答

- ・ 年齢別では、20歳以上の場合、「仕事をしていた」比率は30～50%、「仕事をしていたなかった」比率は40～65%となっている。

問1 年齢 × 問17 入院前の就労状況



 仕事をしていた  
 仕事をしていたなかった  
 不明・無回答

## (2) 就労していた業種

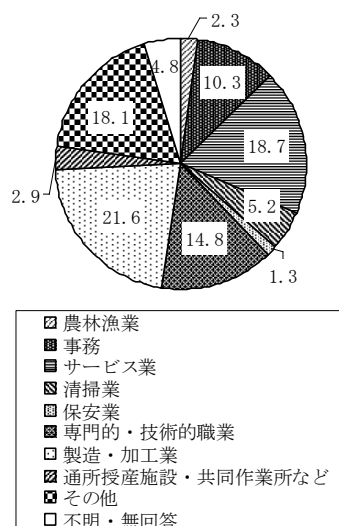
〈本人調査〉

問18-1 「問17」で「1. 仕事をしていた」とお答えの方) あなたのしていた仕事は、次の種類のうちどれにあたりますか。複数の仕事についておられた方は、最も新しい仕事についてお答えください。

- ・ 「製造・加工業」が21.6%、「サービス業」が18.7%、「その他」が18.1%などと続いている。「その他」の具体的な内容には、「実家の手伝い」や「新聞配達」、「染色業」などの記述が見られた。

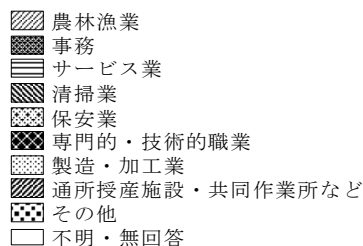
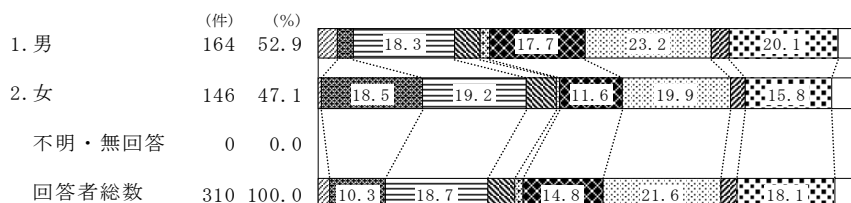
問18-1 就労していた業種

	(単位:%)
	平成18年
農林漁業	2.3
事務	10.3
サービス業	18.7
清掃業	5.2
保安業	1.3
専門的・技術的職業	14.8
製造・加工業	21.6
通所授産施設・共同作業所など	2.9
その他	18.1
不明・無回答	4.8
合計	100.0
N	310

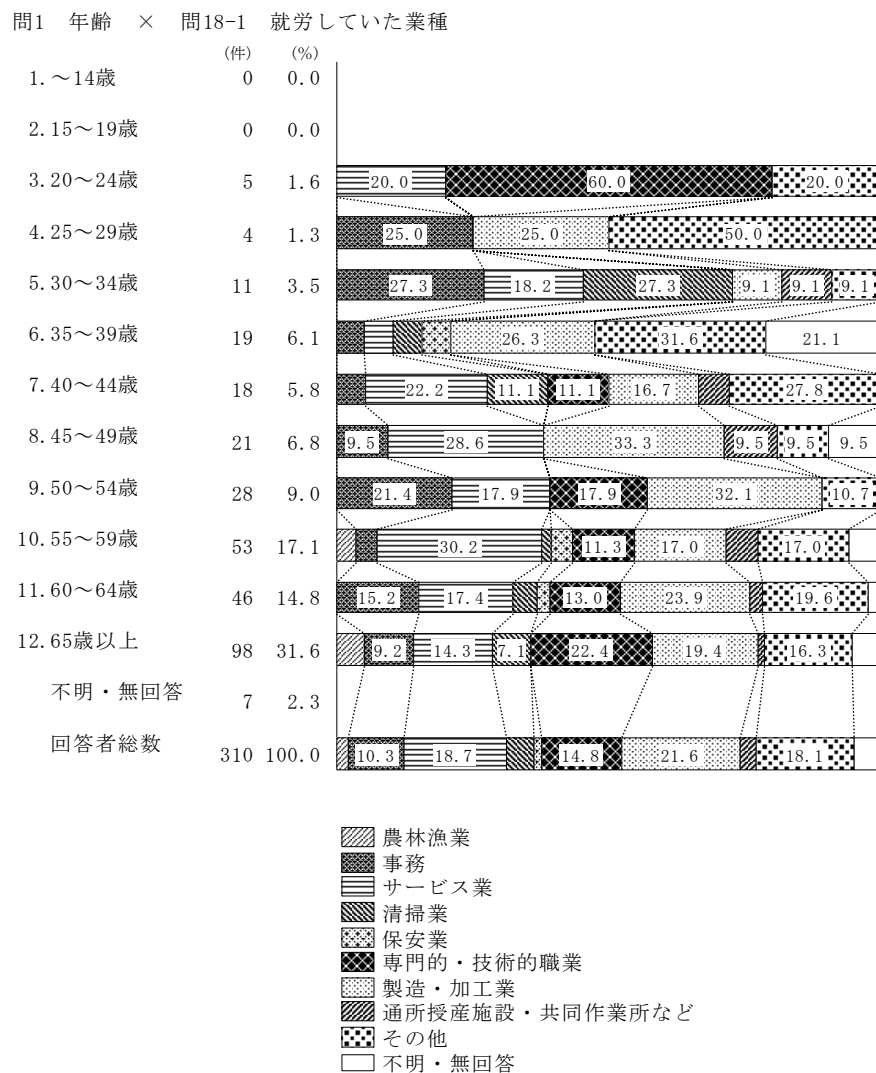


- ・ 性別では、男性、女性とも「製造・加工業」、「サービス業」、「その他」の比率が高い。女性では「事務」の比率も高くなっている。

問2 性別 × 問18-1 就労していた業種



- ・ 年齢別では、50歳以上において、「専門的・技術的職業」の比率が少し高くなっている。



### (3) 就労形態

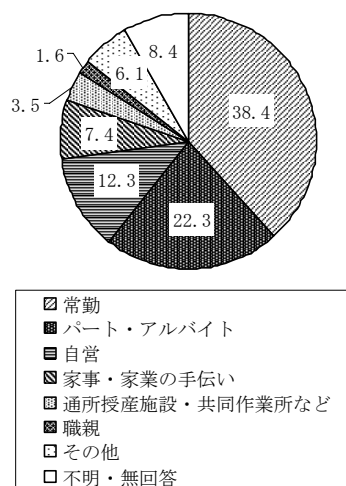
〈本人調査〉

問18-2（「問17」で「1. 仕事をしていた」とお答えの方）あなたのお勤めの形態は、次のうちどれでしょうか。複数の仕事についておられた方は、最も新しい仕事についてお答えください。

- ・ 「常勤」が38.4%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が22.3%、「自営」が12.3%などと続いている。

問18-2 就労形態

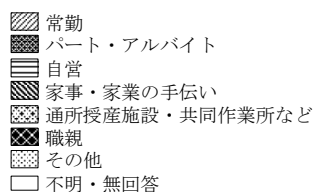
	(単位:%)
	平成18年
常勤	38.4
パート・アルバイト	22.3
自営	12.3
家事・家業の手伝い	7.4
通所授産施設・共同作業所など	3.5
職親	1.6
その他	6.1
不明・無回答	8.4
合計	100.0
N	310



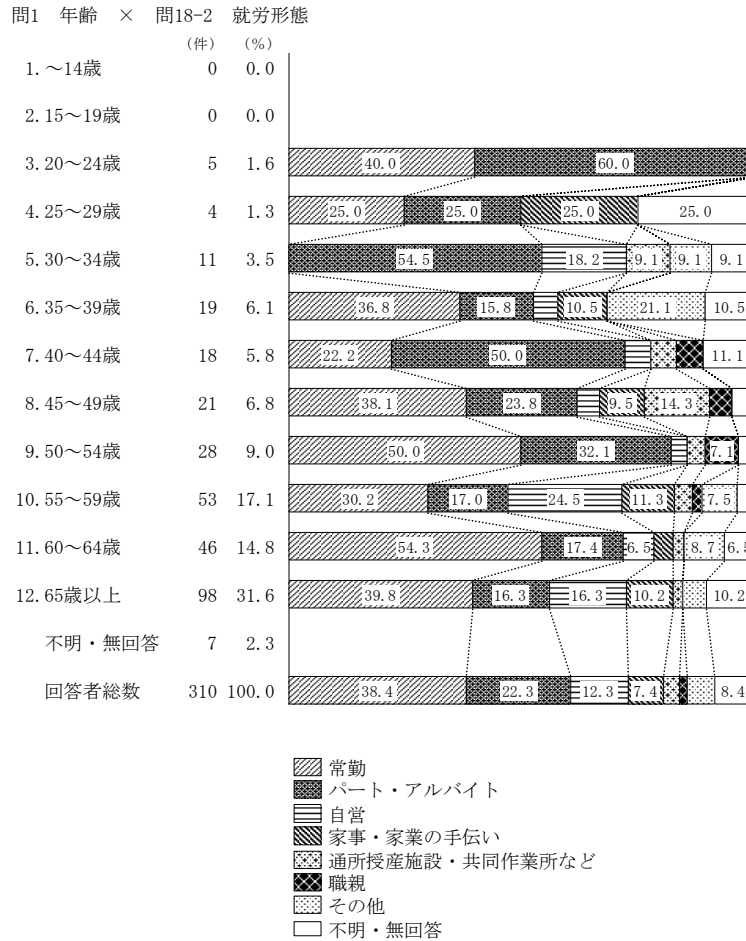
- ・ 性別では、男性は女性に比べて「常勤」が多くなっており、女性では「パート・アルバイト」の比率が高くなっている。

問2 性別 × 問18-2 就労形態

性別	(件)	(%)	常勤	パート・アルバイト	自営	家事・家業の手伝い	通所授産施設・共同作業所など	職親	その他	不明・無回答
1. 男	164	52.9	45.1	14.0	14.0	7.3	7.3	6.7		
2. 女	146	47.1	30.8	31.5	10.3	7.5	10.3			
不明・無回答	0	0.0								
回答者総数	310	100.0	38.4	22.3	12.3	7.4	3.5	1.6	6.1	8.4



- ・ 年齢別では、比較的回答者数の多い30歳以上の傾向を見ると、「30～34歳」と「40～44歳」では「パート・アルバイト」が50%を超え、最も多くなっており、45歳以上では「常勤」が最も多くなっている。



#### (4) 退院後の就労意向

〈本人調査〉

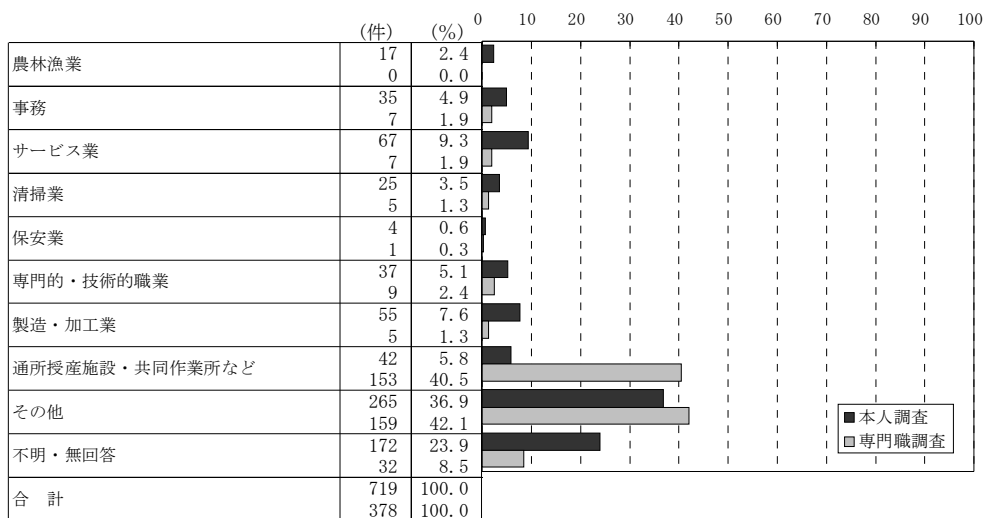
問19 あなたは、今後退院されるとしたら、どのような仕事をしたいと思われませんか。主なものを1つお答えください。

〈専門職調査〉

問6 退院後、ご本人に最も適当だと思われる働く場はどれですか。

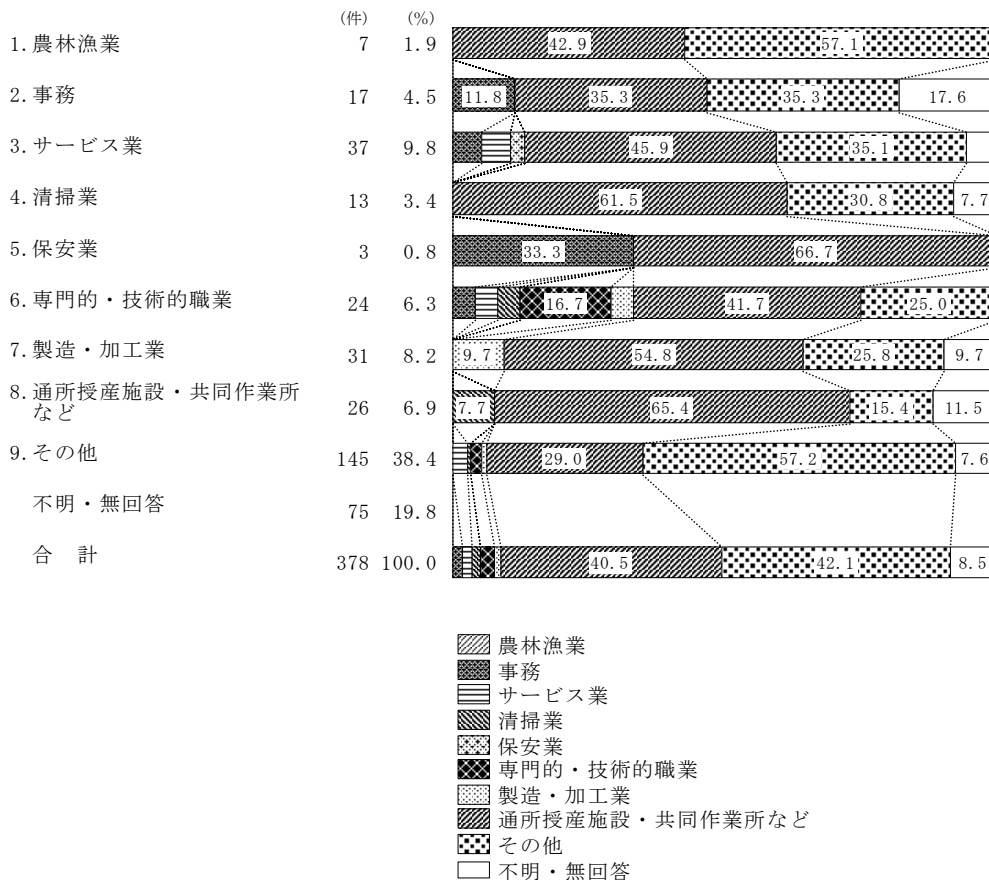
- ・ 本人調査・専門職調査とも「その他」が最も多く、本人調査で 36.9%、専門職調査で 42.1%となっている。「その他」の具体的内容は、本人調査では「希望しない」や「しようとは思わない」、「出来ない」という記述が多く、専門職調査では「適当でない」や「無理」、「年齢的に働けない」などの記述が見られた。なお、専門職調査では、「その他」に並んで「通所授産施設・共同作業所など」が 40.5%と高くなっているのが特徴である。

退院後の就労意向



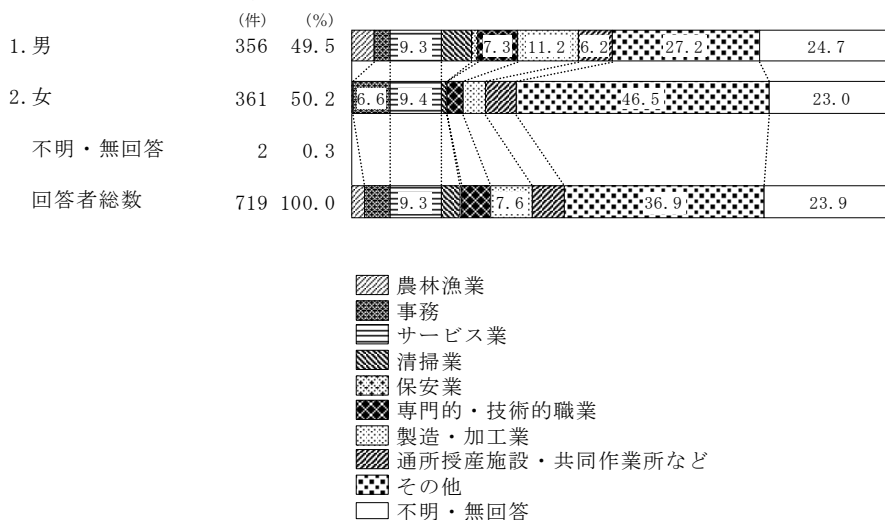
- ・ 本人の「退院後の就労意向」と専門職が考える「最適だと思われる退院後の職場」の関係については、専門職は本人に比べ、「通所授産施設・共同作業所など」の比率が高い。また「その他」は、本人、専門職とも比率が高くなっている。「その他」の内容は前掲したように、就労を「希望しない」や「就労は無理」という内容である。

E\_問19 退院後の就労意向 × F\_問6 最適だと思われる退院後の職場



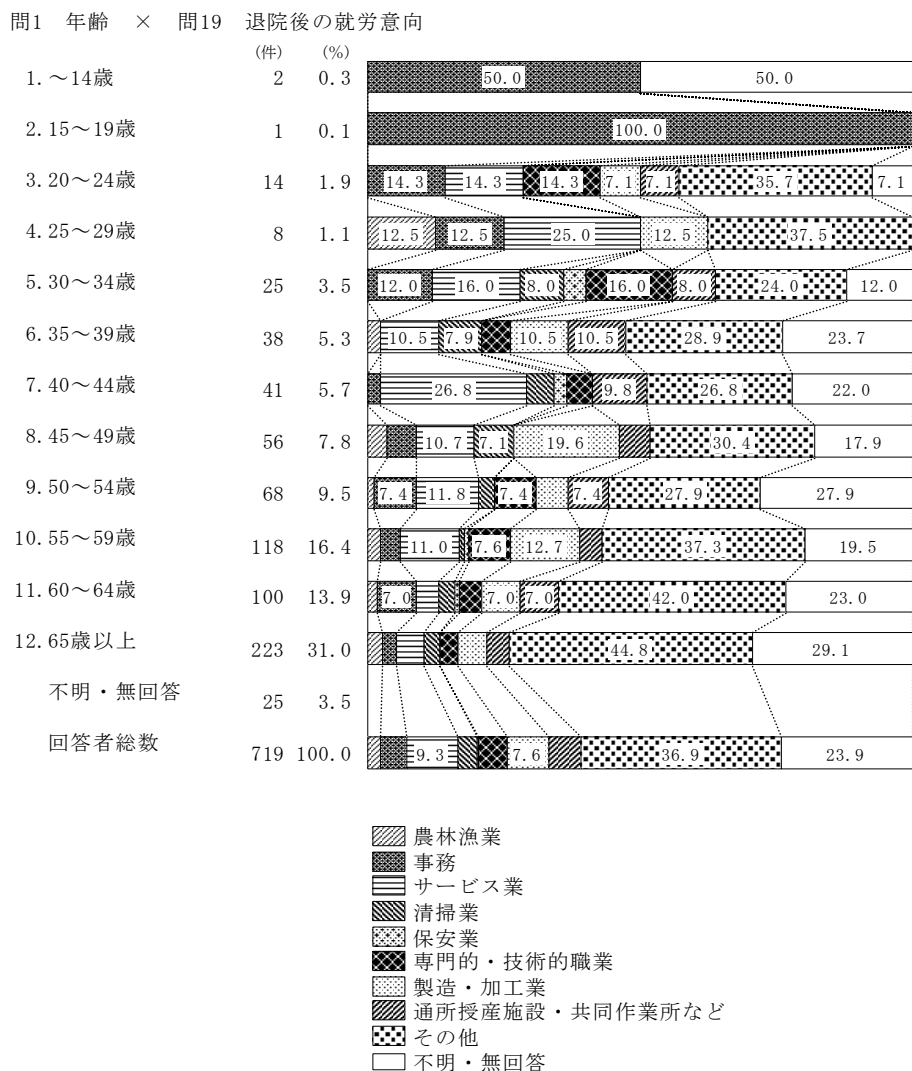
・ 性別では、女性は男性に比べて「その他」の比率が高くなっているのが特徴である。

問2 性別 × 問19 退院後の就労意向





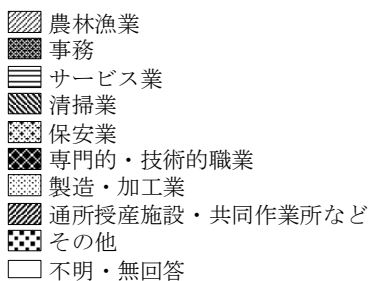
- ・ 年齢別では、回答者数の少ない20歳未満を除くと、どの年齢層も「その他」や「不明・無回答」の比率が高くなっている。また、何らかの業種への就労意向を示している人は20～49歳までは半数近くを占めているが、50歳以上になると就労意向は減少し、「その他」や「不明・無回答」が多くなっている。



- ・ 専門職調査の「退院の可能性」と本人調査の「退院後の就労意向」の関係を見ると、退院の可能性の内容にかかわらず、「その他」や「不明・無回答」の比率が高く、この両方で50%以上を占めている。

F\_問1 退院の可能性 × E\_問19 退院後の就労意向

	(件)	(%)											
1. 病状の改善により、近い将来退院が可能	162	22.5	8.0	10.5	36.4	24.1							
2. 環境を整えば、近い将来退院可能	216	30.0	11.1	11.1	7.9	39.8	16.7						
3. 病院内で当面の治療や処遇が必要	339	47.1	8.8	7.1	35.1	28.3							
不明・無回答	2	0.3											
合計	719	100.0	9.3	7.6	36.9	23.9							



### (5) 退院後の希望就労形態

〈本人調査〉

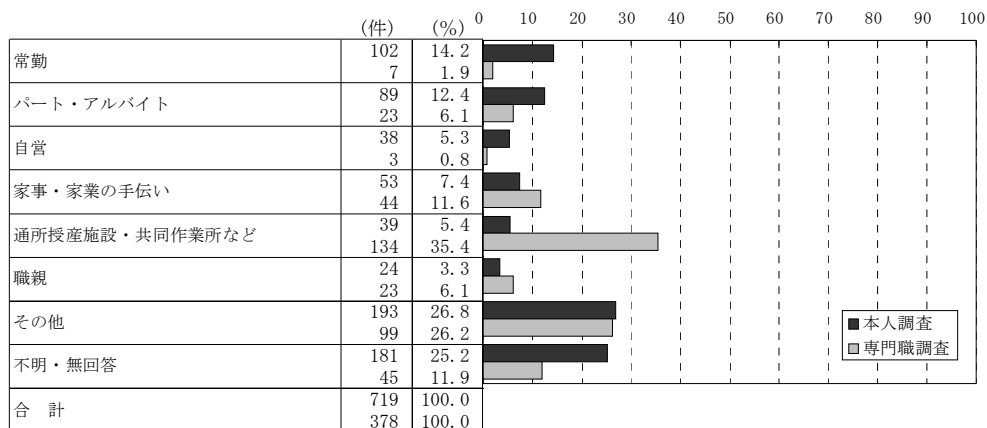
問20 あなたは、今後退院されるとしたら、どのような仕事の形態を希望されますか。主なものを1つお答えください。

〈専門職調査〉

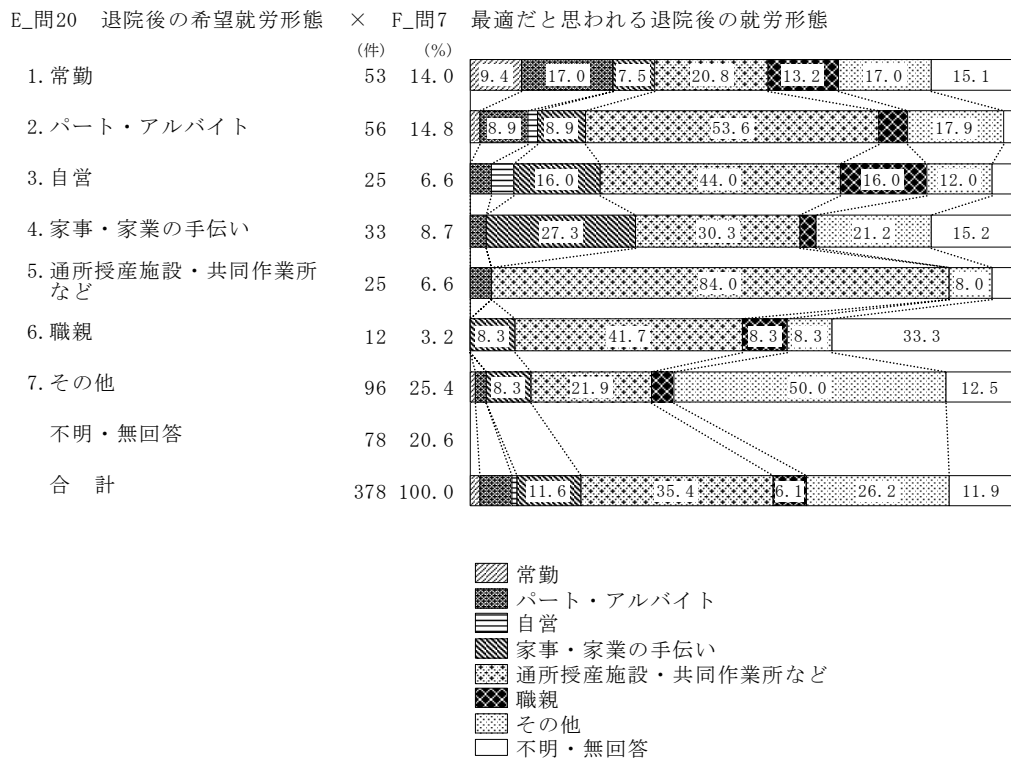
問7 退院後、ご本人に最も適当だと思われるお勤めの形態は、次の区分のうちどれですか。

- ・ 退院後の希望就労形態については、本人調査の場合は、「その他」が26.8%で最も多く、次いで「不明・無回答」が25.2%となっており、この両者の比率が高い。「その他」の具体的な内容は、「希望しない」、「出来ない」、「無理」などの回答が多く見られた。一方、専門職調査の場合は、「通所授産施設・共同作業所など」の比率が35.4%で最も多く、次いで「その他」が26.2%となっている。「その他」の具体的な内容は、本人調査と同様に「希望していない」、「就労は困難」、「無理」などの回答が多く見られた。

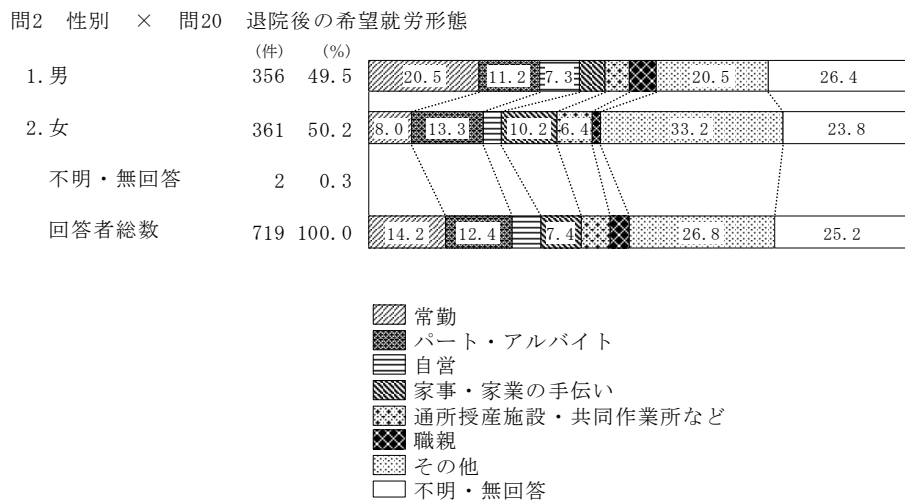
退院後の希望就労形態



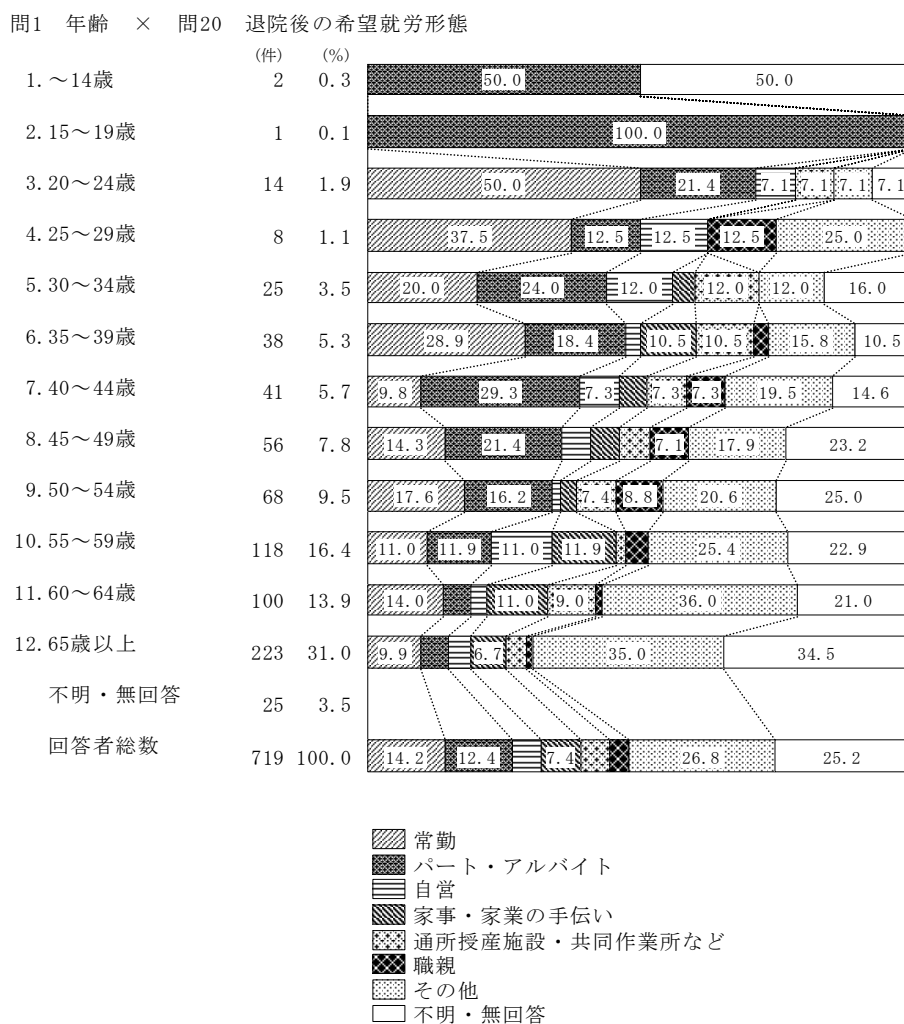
- ・ 本人の「退院後の希望就労形態」と専門職が考える「最適だと思われる退院後の就労形態」の関係では、本人が「常勤」を希望する場合を除くと、それ以外では「通所授産施設・共同作業所など」の比率が高くなっているのが特徴的である。また、本人が「家事・家業の手伝い」を希望する場合は、専門職も「家事・家業の手伝い」を挙げる場合が多く、本人が「通所授産施設・共同作業所など」を希望する場合は、専門職も「通所授産施設・共同作業所」を挙げる場合が多いなど、本人と専門職の意向は比較的一致する傾向が見られる。



- ・ 性別では、男性は女性に比べて「常勤」の比率が高く、女性は男性に比べて「その他」の比率が高くなっている。



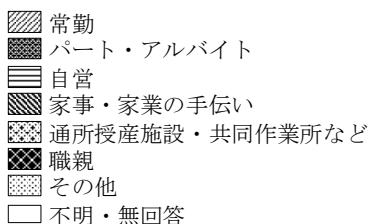
- ・ 年齢別では、回答者数の少ない20歳未満を除くと、年齢層が若い層では「常勤」の比率が高いのに対し、40歳以上では年齢層が上がるにつれて、「その他」や「不明・無回答」の比率が高くなっている。



- 専門職が考える「退院の可能性」と本人の「退院後の希望就労形態」の関係については、「退院の可能性」がいずれの場合においても、本人が退院後に希望する就労形態は、「通所授産施設・共同作業所など」の比率が高い。また、「病状の改善により、近い将来退院が可能」の場合は、本人が「常勤」を希望する場合が18.5%で2番目に多いのに対し、「環境が整えば、近い将来退院可能」の場合は「パート・アルバイト」を希望する場合が16.2%で2番目に多くなっている。「病院内で当面の治療や処遇が必要」の場合は、「その他」や「不明・無回答」の比率が、それ以外の場合よりも少し高くなっている。

F\_問1 退院の可能性 × E\_問20 退院後の希望就労形態

	(件)	(%)							
1. 病状の改善により、近い将来退院が可能	162	22.5	18.5	13.0	8.0	24.1	23.5		
2. 環境が整えば、近い将来退院可能	216	30.0	10.6	16.2	12.0	7.4	26.4	18.5	
3. 病院内で当面の治療や処遇が必要	339	47.1	14.5	9.7	28.3	30.1			
不明・無回答	2	0.3							
合計	719	100.0	14.2	12.4	7.4	26.8	25.2		



## (6) 収入の有無

〈本人調査〉

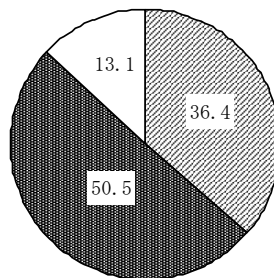
### 問21 あなたご自身には収入がありますか。

- ・ 「ある」が36.4%、「ない」が50.5%であり、収入のない人が半数を超えている。

問21 収入の有無

(単位:%)

	平成18年
ある	36.4
ない	50.5
不明・無回答	13.1
合計	100.0
N	719



■ ある ■ ない □ 不明・無回答

## (7) 収入の種類

〈本人調査〉

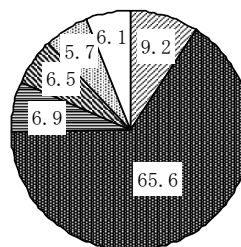
### 問22-1 「問21」で、収入が「1. ある」とお答えの方) あなたの収入の種類は次のどれにあたりますか。主なものを1つお答えください。

- ・ 「年金」が65.6%で最も多く、次いで「事業収入や給与・賃金等」が9.2%と続いている。

問22-1 収入の種類

(単位:%)

	平成18年
事業収入や給与・賃金等	9.2
年金	65.6
手当	6.9
仕送りや家族援助	6.5
家賃・地代・利子・財産収入等	5.7
不明・無回答	6.1
合計	100.0
N	262



■ 事業収入や給与・賃金等  
 ■ 年金  
 ■ 手当  
 ■ 仕送りや家族援助  
 ■ 家賃・地代・利子・財産収入等  
 □ 不明・無回答

(8) 収入の額

〈本人調査〉

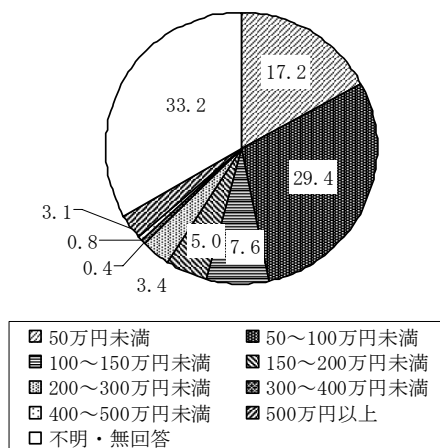
問22-2 「問21」で、収入が「1. ある」とお答えの方) あなたの収入は、おおよそどのくらいですか。年収でお答えください。

- ・ 「50～100万円未満」が29.4%で最も多く、次いで「50万円未満」が17.2%と続いている。その結果、年収が100万円未満の人は全体の46.6%と半数近くを占めていることが分かる。

問22-2 収入の額

(単位:%)

	平成18年
50万円未満	17.2
50～100万円未満	29.4
100～150万円未満	7.6
150～200万円未満	5.0
200～300万円未満	3.4
300～400万円未満	0.4
400～500万円未満	0.8
500万円以上	3.1
不明・無回答	33.2
合計	100.0
N	262



- ・ 定年ラインである60歳未満と60歳以上との比較では、大きな違いは見られない。

問1 年齢 × 問22-2 収入の額

年齢	収入の額		割合 (%)
	(件)	(%)	
1. 60歳未満	110	42.0	30.0
2. 60歳以上	143	54.6	35.0
不明・無回答	9	3.4	
回答者総数	262	100.0	33.2





(9) 収入の管理者

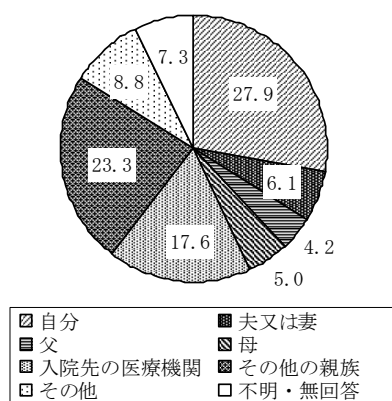
〈本人調査〉

問22-3 あなたの収入は、だれが管理していますか。

- ・ 「自分」が27.9%で最も多く、次いで「その他の親族」が23.3%、「入院先の医療機関」が17.6%と続いている。この状況は、入院患者において50歳以上の人が56.9%を占め、配偶者がいない人の割合が83.9%となっていることに起因するものと考えられる。

問22-3 収入の管理者

	(単位:%)
	平成18年
自分	27.9
夫又は妻	6.1
父	4.2
母	5.0
入院先の医療機関	17.6
その他の親族	23.3
その他	8.8
不明・無回答	7.3
合計	100.0
N	262



## 6. 精神保健福祉施策への要望など

### (1) 利用を希望する施設・障害者施策

〈本人調査〉

問23 あなたは、今後どのような施設や障害者施策の利用を希望されますか。主なものを3つまでお答えください。

- ・ 「不明・無回答」を除くと、「デイ・ケア」が19.6%と最も多く、次いで、「アパート・公営住宅」が18.2%、「障害者地域生活支援センター」が14.6%、「こころのふれあい交流サロン」が12.1%などと続いている。なお、「その他」の具体的内容としては、「特にない」、「わからない」、「何もいらない」などの回答が見られた。

問23 利用を希望する施設・障害者施策〈複数回答3〉  
(単位:%)

	平成18年
グループ活動	7.2
デイ・ケア	19.6
こころのふれあい交流サロン	12.1
障害者地域生活支援センター	14.6
ホームヘルプサービス	9.5
ショートステイ	5.1
ガイドヘルパー	6.7
就労移行支援	8.9
通所授産施設、福祉工場、共同作業所など	5.4
自立訓練	10.7
施設入所支援	5.0
グループホーム・ケアホーム・福祉ホーム	6.1
アパート・公営住宅	18.2
老人ホームなどの施設	10.8
スポーツ施設	5.0
サークル活動、文化活動などのできる施設	7.4
その他	17.1
不明・無回答	22.9
合計	192.5
N	719

第7章 精神障害者生活状況調査（入院患者・専門職）結果

- ・ 疾患の種類別に見ると、「アルコール依存症，薬物依存症」では「アパート・公営住宅」（40.0%）が最も多く、「こころのふれあい交流サロン」（28.0%）がそれに続いている。「統合失調症，妄想性障害，非定型精神病」では、「デイ・ケア」（22.5%）が最も多く，次いで「アパート・公営住宅」（19.7%）となっている。「気分（感情）障害（躁うつ病・うつ病を含む）」でも「デイ・ケア」（27.1%）と「アパート・公営住宅」（22.4%）が多くなっている。「神経症，ストレス関連障害，身体表現性障害及び解離性障害」では「その他」（25.0%）が最も多く，「アパート・公営住宅」（19.6%）がそれに続いている。

問7 精神疾患の種類 × 問23 利用を希望する施設・障害者施策（複数回答3）

問23		利用を希望する施設・障害者施策（複数回答3）									
問7		1. グループ活動	2. デイ・ケア	3. こころのふれあい交流サロン	4. 障害者地域生活支援センター	5. ホームヘルプサービス	6. ショートステイ	7. ガイドヘルパー	8. 就労移行支援	9. 通所授産施設，福祉工場，共同作業所など	10. 自立訓練
精神疾患の種類	1. アルコール依存症，薬物依存症	5 20.0	6 24.0	7 28.0	6 24.0	1 4.0	2 8.0	2 8.0	3 12.0	0 0.0	5 20.0
	2. 統合失調症，妄想性障害，非定型精神病	23 8.0	65 22.5	30 10.4	45 15.6	35 12.1	14 4.8	18 6.2	23 8.0	20 6.9	30 10.4
	3. 気分（感情）障害（躁うつ病・うつ病を含む）	7 8.2	23 27.1	18 21.2	17 20.0	4 4.7	4 4.7	4 4.7	7 8.2	10 11.8	11 12.9
	4. 神経症，ストレス関連障害，身体表現性障害及び解離性障害	3 5.4	10 17.9	6 10.7	9 16.1	4 7.1	5 8.9	5 8.9	8 14.3	1 1.8	9 16.1
	5. てんかん	1 10.0	4 40.0	2 20.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0
	6. わからない	8 5.2	18 11.7	15 9.7	16 10.4	18 11.7	9 5.8	13 8.4	19 12.3	5 3.2	17 11.0
	7. その他	2 4.3	7 15.2	6 13.0	8 17.4	3 6.5	1 2.2	3 6.5	4 8.7	1 2.2	4 8.7
	不明・無回答	3 5.6	8 14.8	3 5.6	4 7.4	2 3.7	2 3.7	2 3.7	0 0.0	2 3.7	0 0.0
回答者総数	52 7.2	141 19.6	87 12.1	105 14.6	68 9.5	37 5.1	48 6.7	64 8.9	39 5.4	77 10.7	

上段：実数(件)  
下段：構成比(%)

問23		利用を希望する施設・障害者施策（複数回答3）									
問7		11. 施設入所支援	12. グループホーム・ケアホーム・福祉ホーム	13. アパート・公営住宅	14. 老人ホームなどの施設	15. スポーツ施設	16. サークル活動，文化活動などのできる施設	17. その他	不明	回答	回答者総数
精神疾患の種類	1. アルコール依存症，薬物依存症	1 4.0	3 12.0	10 40.0	1 4.0	4 16.0	2 8.0	2 8.0	3 12.0	3 12.0	25 100.0
	2. 統合失調症，妄想性障害，非定型精神病	16 5.5	21 7.3	57 19.7	37 12.8	16 5.5	24 8.3	42 14.5	62 21.5	289 100.0	
	3. 気分（感情）障害（躁うつ病・うつ病を含む）	1 1.2	6 7.1	19 22.4	10 11.8	7 8.2	9 10.6	10 11.8	14 16.5	85 100.0	
	4. 神経症，ストレス関連障害，身体表現性障害及び解離性障害	4 7.1	3 5.4	11 19.6	3 5.4	4 7.1	5 8.9	14 25.0	8 14.3	56 100.0	
	5. てんかん	0 0.0	1 10.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	2 20.0	10 100.0	
	6. わからない	9 5.8	6 3.9	22 14.3	20 13.0	2 1.3	11 7.1	33 21.4	37 24.0	154 100.0	
	7. その他	4 8.7	3 6.5	6 13.0	4 8.7	2 4.3	2 4.3	13 28.3	9 19.6	46 100.0	
	不明・無回答	1 1.9	1 1.9	4 7.4	3 5.6	1 1.9	0 0.0	7 13.0	30 55.6	54 100.0	
回答者総数	36 5.0	44 6.1	131 18.2	78 10.8	36 5.0	53 7.4	123 17.1	165 22.9	719 100.0		

## (2) 福祉施策への要望

〈本人調査〉

問24 あなたにとって、今後特に必要とされるもの、または強く望みたいことがらがありますか。次のうちから最も近いものを5つまでお答えください。

- ・ 比率の高い順に見ると、「公的年金等所得保障の充実」(33.4%)、「住まいの場確保の支援」(20.9%)、「障害者医療等医療制度の拡充」(18.8%)、「各種の相談事業の充実」(18.5%)、「精神障害やてんかんへの理解」(17.2%)などと続いている。

問24 福祉施策への要望〈複数回答5〉

(単位:%)

	平成18年
精神障害やてんかんへの理解	17.2
保健所の相談や訪問活動の充実	14.0
各種の相談事業の充実	18.5
医療体制の充実	12.9
障害者医療等医療制度の拡充	18.8
公的年金等所得保障の充実	33.4
住まいの場確保の支援	20.9
日常生活支援の充実	12.4
金銭管理や福祉サービスの利用支援	14.2
ガイドヘルパーなどの充実	7.6
障害状況に応じた職業訓練	8.5
障害のある人の雇用促進	14.0
交通運賃割引制度の充実	16.8
交流活動の充実	10.3
スポーツ、文化活動等に参加したい	11.4
障害のある人の権利を守る施策	15.4
家族のリフレッシュ事業	7.8
その他	12.8
不明・無回答	23.5
合計	290.5
N	719

〈参考資料〉過去の調査  
精神保健福祉分野に望むこと（複数回答3）

（単位：%）

	平成9年	平成13年
精神障害やてんかんに対する理解を深める活動	10.5	14.9
保健所の相談や訪問活動の充実	13.3	14.3
救急医療など医療体制の充実	15.8	13.0
年金制度などの所得保障の充実	38.3	37.0
ホームヘルパーの派遣など日常生活支援の充実	14.0	13.2
グループホームなど住まいの場の確保	10.0	12.0
通所授産施設・共同作業所など働く場の充実	12.5	6.3
働くための職業訓練施設の充実	9.3	13.2
交通運賃の割引制度の充実	19.8	18.5
仲間やボランティア、近隣の人達との交流活動の場	13.3	16.9
とくに望むことはない	21.0	26.5
その他	3.8	3.6
不明・無回答	-	4.3
合計	181.6	193.7
N	600	698

- ・ 年齢別で見ると、多くの年齢層で「公的年金等所得保障の充実」の比率が高くなっているが、それ以外の特徴として30%を超えている項目を見ると、「20～24歳」で「医療体制の充実」（35.7%）、「スポーツ、文化活動等への参加」（50.0%）の各項目が該当し、「25～29歳」では「障害のある人の雇用促進」（50.0%）、「各種の相談事業の充実」（37.5%）が、そして「30～34歳」では「精神障害やてんかんへの理解」（44.0%）と「スポーツ、文化活動等への参加」（36.0%）の両項目が該当している。

第7章 精神障害者生活状況調査（入院患者・専門職）結果

問1 年齢 × 問24 福祉施策への要望（複数回答5）

問24		福祉施策への要望（複数回答5）									
問1		1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	9.	10.
		精神障害やてんかんへの理解	保健所の相談や訪問活動の充実	各種の相談事業の充実	医療体制の充実	障害者医療等医療制度の拡充	公的年金等所得保障の充実	住まいの場確保の支援	日常生活支援の充実	金銭管理や福祉サービスの利用支援	ガイドヘルパーなどの充実
年齢	1. 1～14歳	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	2. 15～19歳	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	3. 20～24歳	3 21.4	4 28.6	4 28.6	5 35.7	2 14.3	4 28.6	3 21.4	2 14.3	2 14.3	4 28.6
	4. 25～29歳	2 25.0	1 12.5	3 37.5	1 12.5	2 25.0	4 50.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	1 12.5
	5. 30～34歳	11 44.0	4 16.0	2 8.0	6 24.0	4 16.0	10 40.0	7 28.0	4 16.0	3 12.0	2 8.0
	6. 35～39歳	6 15.8	5 13.2	8 21.1	6 15.8	7 18.4	11 28.9	4 10.5	3 7.9	5 13.2	2 5.3
	7. 40～44歳	12 29.3	4 9.8	8 19.5	7 17.1	10 24.4	15 36.6	11 26.8	6 14.6	10 24.4	2 4.9
	8. 45～49歳	12 21.4	10 17.9	16 28.6	8 14.3	16 28.6	18 32.1	14 25.0	11 19.6	7 12.5	3 5.4
	9. 50～54歳	16 23.5	13 19.1	13 19.1	4 5.9	13 19.1	27 39.7	20 29.4	8 11.8	13 19.1	3 4.4
	10. 55～59歳	22 18.6	15 12.7	22 18.6	12 10.2	26 22.0	41 34.7	30 25.4	16 13.6	19 16.1	6 5.1
	11. 60～64歳	15 15.0	21 21.0	18 18.0	17 17.0	19 19.0	35 35.0	17 17.0	16 16.0	13 13.0	10 10.0
	12. 65歳以上	23 10.3	22 9.9	35 15.7	23 10.3	34 15.2	64 28.7	39 17.5	23 10.3	27 12.1	19 8.5
	不明・無回答	1 4.0	1 4.0	4 16.0	3 12.0	2 8.0	9 36.0	3 12.0	0 0.0	3 12.0	3 12.0
回答者総数	124 17.2	101 14.0	133 18.5	93 12.9	135 18.8	240 33.4	150 20.9	89 12.4	102 14.2	55 7.6	

上段：実数（件）  
下段：構成比（%）

問24		福祉施策への要望（複数回答5）									
問1		11.	12.	13.	14.	15.	16.	17.	18.	不明・無回答	回答者総数
		障害状況に応じた職業訓練	障害のある人の雇用促進	交通運賃割引制度の充実	交流活動の充実	スポーツ文化活動等に参加したい	障害のある人の権利を守る施策	家族のリフレッシュ事業	その他		
年齢	1. 1～14歳	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	2 100.0
	2. 15～19歳	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
	3. 20～24歳	3 21.4	1 7.1	1 7.1	3 21.4	7 50.0	2 14.3	4 28.6	0 0.0	1 7.1	14 100.0
	4. 25～29歳	0 0.0	4 50.0	1 12.5	2 25.0	2 25.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5	1 12.5	8 100.0
	5. 30～34歳	3 12.0	5 20.0	6 24.0	3 12.0	9 36.0	6 24.0	1 4.0	4 16.0	1 4.0	25 100.0
	6. 35～39歳	2 5.3	8 21.1	6 15.8	2 5.3	6 15.8	7 18.4	3 7.9	5 13.2	13 34.2	38 100.0
	7. 40～44歳	10 24.4	10 24.4	11 26.8	9 22.0	8 19.5	11 26.8	5 12.2	5 12.2	6 14.6	41 100.0
	8. 45～49歳	6 10.7	10 17.9	9 16.1	3 5.4	5 8.9	9 16.1	6 10.7	4 7.1	16 28.6	56 100.0
	9. 50～54歳	9 13.2	15 22.1	8 11.8	9 13.2	10 14.7	12 17.6	8 11.8	6 8.8	16 23.5	68 100.0
	10. 55～59歳	10 8.5	26 22.0	21 17.8	10 8.5	12 10.2	22 18.6	7 5.9	17 14.4	21 17.8	118 100.0
	11. 60～64歳	6 6.0	7 7.0	19 19.0	11 11.0	10 10.0	13 13.0	9 9.0	10 10.0	24 24.0	100 100.0
	12. 65歳以上	9 4.0	12 5.4	35 15.7	20 9.0	12 5.4	26 11.7	12 5.4	37 16.6	57 25.6	223 100.0
	不明・無回答	1 4.0	2 8.0	4 16.0	1 4.0	1 4.0	2 8.0	1 4.0	3 12.0	12 48.0	25 100.0
回答者総数	61 8.5	101 14.0	121 16.8	74 10.3	82 11.4	111 15.4	56 7.8	92 12.8	169 23.5	719 100.0	

第7章 精神障害者生活状況調査（入院患者・専門職）結果

- 疾患の種類別に、30%を超える項目を見ると、「アルコール依存症、薬物依存症」では「保健所の相談や訪問活動の充実」(36.0%)が、「統合失調症、妄想性障害、非定型精神病」では「公的年金等所得保障の充実」(36.0%)、「気分(感情)障害(躁うつ病・うつ病含む)」では「公的年金等所得保障の充実」(38.8%)、「神経症、ストレス関連障害、身体表現性障害及び解離性障害」では「公的年金等所得保障の充実」(42.9%)、「てんかん」では「精神障害やてんかんへの理解」(40.0%)、「障害状況に応じた職業訓練」(40.0%)などとなっている。全体的にはほとんどの障害で「公的年金等所得保障の充実」への要望が大きい。

問7 精神疾患の種類 × 問24 福祉施策への要望(複数回答5)

問24		福祉施策への要望(複数回答5)									
問7		1. 精神障害やてんかんへの理解	2. 保健所の相談や訪問活動の充実	3. 各種の相談事業の充実	4. 医療体制の充実	5. 障害者医療等医療制度の拡充	6. 公的年金等所得保障の充実	7. 住まいの場確保の支援	8. 日常生活支援の充実	9. 金銭管理や福祉サービスの利用支援	10. ガイドヘルパーなどの充実
精神疾患の種類	1. アルコール依存症、薬物依存症	5 20.0	9 36.0	6 24.0	5 20.0	7 28.0	5 20.0	6 24.0	3 12.0	4 16.0	2 8.0
	2. 統合失調症、妄想性障害、非定型精神病	67 23.2	39 13.5	58 20.1	35 12.1	62 21.5	104 36.0	62 21.5	32 11.1	38 13.1	25 8.7
	3. 気分(感情)障害(躁うつ病・うつ病を含む)	18 21.2	16 18.8	21 24.7	16 18.8	18 21.2	33 38.8	21 24.7	14 16.5	17 20.0	8 9.4
	4. 神経症、ストレス関連障害、身体表現性障害及び解離性障害	5 8.9	10 17.9	11 19.6	8 14.3	10 17.9	24 42.9	14 25.0	10 17.9	12 21.4	2 3.6
	5. てんかん	4 40.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0	3 30.0	1 10.0	0 0.0	2 20.0	0 0.0
	6. わからない	19 12.3	21 13.6	23 14.9	16 10.4	21 13.6	41 26.6	34 22.1	21 13.6	14 9.1	9 5.8
	7. その他	4 8.7	2 4.3	8 17.4	7 15.2	13 28.3	20 43.5	8 17.4	6 13.0	8 17.4	5 10.9
	不明・無回答	2 3.7	2 3.7	5 9.3	5 9.3	2 3.7	10 18.5	4 7.4	3 5.6	7 13.0	4 7.4
回答者総数	124 17.2	101 14.0	133 18.5	93 12.9	135 18.8	240 33.4	150 20.9	89 12.4	102 14.2	55 7.6	

上段：実数(件)  
下段：構成比(%)

問24		福祉施策への要望(複数回答5)									
問7		11. 障害状況に応じた職業訓練	12. 障害のある人の雇用促進	13. 交通運賃割引制度の充実	14. 交流活動の充実	15. スポーツ、文化活動等に参加した	16. 障害のある人の権利を守る施策	17. 家族のリフレッシュ事業	18. その他	不明・無回答	回答者総数
精神疾患の種類	1. アルコール依存症、薬物依存症	3 12.0	4 16.0	3 12.0	6 24.0	6 24.0	4 16.0	2 8.0	2 8.0	4 16.0	25 100.0
	2. 統合失調症、妄想性障害、非定型精神病	26 9.0	52 18.0	49 17.0	31 10.7	31 10.7	50 17.3	23 8.0	29 10.0	66 22.8	289 100.0
	3. 気分(感情)障害(躁うつ病・うつ病を含む)	7 8.2	16 18.8	20 23.5	11 12.9	16 18.8	10 11.8	8 9.4	9 10.6	11 12.9	85 100.0
	4. 神経症、ストレス関連障害、身体表現性障害及び解離性障害	3 5.4	9 16.1	11 19.6	5 8.9	8 14.3	11 19.6	6 10.7	6 10.7	8 14.3	56 100.0
	5. てんかん	4 40.0	1 10.0	3 30.0	1 10.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0	3 30.0	10 100.0
	6. わからない	12 7.8	12 7.8	19 12.3	12 7.8	9 5.8	17 11.0	10 6.5	32 20.8	39 25.3	154 100.0
	7. その他	5 10.9	6 13.0	9 19.6	4 8.7	5 10.9	11 23.9	5 10.9	9 19.6	9 19.6	46 100.0
	不明・無回答	1 1.9	1 1.9	7 13.0	4 7.4	5 9.3	6 11.1	1 1.9	4 7.4	29 53.7	54 100.0
回答者総数	61 8.5	101 14.0	121 16.8	74 10.3	82 11.4	111 15.4	56 7.8	92 12.8	169 23.5	719 100.0	